

2014 年度(平成 26 年度)

事 業 報 告

(自) 2014 年 4 月 1 日

(至) 2015 年 3 月 31 日

事業報告目次

I. 全体総括	1 P
II. ボランティア・市民活動推進事業	3 P
1. ボランティアセンター事業	4 P
2. ボランティアビューロー事業	18 P
3. せたがやチャイルドライン事業	24 P
III. 福祉事業	28 P
1. ケアセンターふらっと (障害者総合支援法 生活介護事業・自立機能訓練事業 ・高次脳機能障害者支援促進事業・特定相談支援事業)	29 P
2. ケアセンターwith (介護保険 通所介護事業)	38 P
3. ケアステーション連 (①介護保険 訪問介護事業、②障害者総合支援法 居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業、 ③自由契約による事業)	43 P
4. ケア相談センター結 (介護保険 居宅介護支援事業)	47 P
5. サービスラーニング学 (介護職員初任者研修事業)	50 P
6. 世田谷地域障害者相談支援センター (障害者総合支援法 地域生活支援事業)	50 P
IV. 組織推進 組織運営・事務局運営・財政運営	55 P

2014 年度 事業報告

はじめに

2014 年度は、国が社会福祉法人の役割を見直した年であった。その検討を受け、厚生労働省は、2015 年 4 月に社会福祉法等の一部を改正する法律案を国会に提出した。この改正案は、福祉サービスの供給体制の整備及び充実を図るために、社会福祉法人制度を改革し、福祉人材の確保を目的として検討されている。国は社会福祉法人に対して、今まで以上に、経営組織のガバナンスの強化や事業運営の透明化、さらに財務規律の強化を求めている。

従来から、社会福祉法人世田谷ボランティア協会は、本改正案の目指すところについては取り組んできているが、今後一層、組織運営における意思決定過程の明確化や事業運営における効率性や透明性の向上に努めていく必要がある。また、財務における適正な支出管理や内部留保の使途の明確化が必要となってくる。さらに、社会福祉法人には地域における公益的事業を実施する責務の規定が定められたので、協会はますます地域貢献の役割が期待されており、取り組みを強化していく必要がある。

こうした法改正の動向を踏まえて協会は、事業運営において障害や高齢といった枠を超えて、広い視野を持って行政や関係機関と情報共有を図りながら、地域資源であるボランティア人材の開拓や支援のための場の確保（特に京王線沿線での場の確保）を早急に検討する必要がある。さらに、安定した法人経営を行うため、従来の個人に対する寄附等の働きかけに加えて、様々な団体等に組織を挙げて個別具体的に働きかけを行い、寄附やバザーへの協力を要請していく。

I. 事業総括

1、協会の情報発信の強化とおたがいさま bank のネットワーク化

2014 年度は、協会のホームページの改良を行うとともに、事業の告知や募集記事をフェイスブックやツイッター等のソーシャルネットと連動する等の工夫を行った。その結果、ホームページのアクセス数は、2014 年 12 月に 3200 件であったのが、2015 年 3 月には 5000 件まで増加した。今後も『世田谷ボランティア協会』をささえる会」（以下「ささえる会」という。）とも連携して、情報発信とネットワークを強化していく。

しかし、次のような課題も残っている。まず、ブログの更新頻度が拠点と事業によってまちまちであったり、必要な情報がホームページの中で探し難い部分がある。また、「おたがいさま bank」においては登録されたデータが十分に活用されていない等と指摘されており、こうした点について 2015 年度は各部から横断的検討チームを立ち上げて対応する。

2、障害者が住み慣れた地域で暮らすための支援促進

福祉事業においては、障害等の様々な困難を抱えた方々に、従来の福祉の枠を越えて、医療関係者を始め、当事者が勤務する職場も含め、地域の中で幅広く協力、調整し、当事者が主体的に生活できるように支援してきた。

例えば、ケアセンターふらっとでは、施設の利用を終了した方であっても、仕事帰りに施設に立ち寄って、いくつもの後遺症を抱えながらの復職の中での悩み等を相談できる場を提供した。あるいは、ボランティアとの連携を図る等、多様な角度から課題解決を行った。

また、介護保険の通所介護事業であるケアセンターwith では、利用者が受け身的対応から自分で選び自分で決めるという過程を通じて、家族から明るく積極的になったとの評価をいただい

いる。

しかし、福祉事業では、利用者の入院等の理由で収入が安定せず、2014年度は、単年度で赤字となった。2015度は、組織推進部と協議し、事業毎に具体的数的根拠を示して収入の確保策を検討する。

3. せたがや災害ボランティアセンターの機能強化と地域連携の推進

緊急災害時のボランティアコーディネーションの体制を整備し、その機能強化を図ることは急務である。世田谷区の災害に備えた活動や災害発生時の行動計画も具体化の速度を上げており、災害ボランティアセンターも区と連動し連携を取りながら、諸施策の具体化を進めていく必要がある。

また、世田谷の地域特性に照らして、在宅避難者に対する支援活動の重要性に注目する必要がある。その支援活動を充実させるためには、地域社会との連携を深めて、ともに考え、ともに訓練し、ともに活動することが肝要である。そのような基本認識のもとに、2015年度も災害ボランティアセンターの諸機能の一層の強化を目指していく。

4. 職員の資質向上のための研修体制の整備と人材育成

ボランティア活動や市民活動の多様な要望に応えていくには、職員の現状認識や問題解決能力等の力量を向上させていく必要があり、職員研修はそのための重要な役割を担っている。

2014年度は日常業務の中での人材育成を推進し、内部研修や外部への委託研修も行った。特に経験値の蓄積が重要である福祉事業においては、共有化すべき研修については、部全体で報告を受け、共有化している。2015年度も、時代の要請や地域の新たな要請に応えられる力量を持った職員を育成するため、研修における様々な規程を整備し、研修体制の充実を図る。

5. 協会運営安定のための自主財源の確保

協会の安定的運営には、支出に見合った収入の確保が欠かせない。特に自主財源である寄附金やバザー収入等を増加させるための工夫が一層求められている。これまで様々な検討がされてきたが、成果は十分とはいえない状況にある。2015年度は、個人に加えて様々な団体等への働きかけを強化し、各部連携して、個別具体的に協力要請を行い、自主財源の確保を目指す。特に、各団体への働きかけの強化は組織推進部を中心にして行い、ボランティア・市民活動推進部と福祉事業部は、従来の個人からの寄附金や新たな場所でのバザー等について取り組んでいく。

Ⅱ. ボランティア・市民活動推進事業

【ボランティア・市民活動推進事業の2014年度総括】

ボランティア・市民活動推進部は、ボランティアセンター・ビューローに寄せられる様々な相談に向き合い、地域の課題の解決に向けて地域の人たちとともに活動していくことを念頭に置いて、事業に取り組んだ。また、ホームページの改良やフェイスブック等のSNSを活用した情報発信の充実に努めてきたが、まだ十分に活用できたとはいえない。年代等にかかわらず、わかりやすい情報が地域の方々の手元に届くようにしていきたい。

2014年度は5つの重点目標を掲げて以下のように取り組んだ。

(1) おたがいさま bank によるネットワーク化と情報機能の充実

2014年度は、組織推進部と協働して、協会ホームページ「おたがいさま Web」の改良を行った。事業の告知やボランティア募集を広く発信していくために、フェイスブックやツイッター、拠点のブログをトップページに見やすく配置したところ、半数以上の閲覧者が次のページに進み、12月は3,200件だったアクセス数が3月は5,000件まで増加した。

また、これまで「おたがいさま bank」というデータベースを使いこなすスキルと体制が十分でなかったので、2015年度は機能を活かした情報発信ができるように、3つの部を跨いだ推進体制を検討する。東日本大震災で専門ボランティア登録した人たちに、「おたがいさま bank」へ登録する了解を得て、移行を進めている。一般の登録者とともに多様な情報提供を行い、日常の活動につながる機会を作っていきたい。ホームページの改良後は一般の登録数が月平均8名から15名に上昇し、アクセスしやすくなったことがわかる。「おたがいさま bank」が世田谷の活動をささえる基盤になることを目指して登録数を増やしていく。

2014年度にできなかった、事業所や町会・自治会等との関係づくりは、せたがや災害ボランティアセンターの活動とリンクして、積極的に行っていく。

(2) セタがや災害ボランティアセンターの活動の基礎固めと災害に立ち向かう仲間づくり

2014年度は、マッチングセンター開設場所の確保、世田谷区での大規模災害を想定した被災地域や被災住民との連携を重視するマッチング活動システムの確立、マッチングコーディネーター養成システムの確立等、区の防災計画の見直しや具体化に合わせた、災害ボランティアセンター活動の基礎固めを目指した。

これらの課題については、一般区民も加えた担当部会の活動により、区の災害対策課や社会福祉協議会とも協議しながら一定の成果を得ることができ、日本体育大学との施設利用に関する協定の締結、同大学周辺の町会等関係者に対するマッチングセンター活動の説明会・意見交換会も実施した。世田谷区社会福祉協議会との共催では、要援護者支援問題を考えるトークセッション「忘れない3.11 世田谷における災害時を考える」を開催した。また、避難所での困りごと事例とその解決策をまとめた冊子を作成し、区内のすべての出張所、まちづくりセンター、町会・自治会に配布した。

今後も、災害ボランティアセンターの緊急災害時の具体的な活動体制を整え、区内の地域団体や大学等に積極的に働きかけて、行政とも連携して、活動説明会、意見交換会、研修会、防災訓練等を行っていく。

(3) 様々な大人たちがせたがやチャイルドラインに参加する機会の創出

2014年度は、全8回の「チャイルドライン公開講座」に延べ146名、その後行われた全10回の連続講座である「受け手養成専修講座」に17名の参加があり、この中から14名のインターン生が生まれた。支え手のための合宿研修にも世田谷を含め全国から参加があり、人材養成事業は成果を出している。また、様々なイベントや常設ショップを通じてチャイルドラインの周知を図り、ボランティアによる手づくり品を販売するなどして活動資金の確保にも努めた。

子どもたちが「いじめ」等の悩みを抱えやすい夏休み明けに、常設フリーダイヤルとは別に、世田谷の子どもたちを対象に実施している「専用フリーダイヤルキャンペーン」は3年目となった。9月最初の1週間で、128件の電話を受けることができた。このキャンペーンにも多くの人の手、そして活動資金が必要である。引き続き地域の大人たちがチャイルドラインの活動を理解し、参加してくれる機会を提供して、子どもが抱える課題やその状況に関心を寄せ、子どもたちが育つ環境がより良いものとなることを目指していく。

(4) ボランティア学習による学校への協力で次世代ボランティアの育成

2014年度の小・中・高校への授業協力は、例年並みの学校数で実施できた。プログラム内容も、できる限り学校の要望に応えられるように、協力者・団体と調整している。ボランティアが日常的に学校の授業と関わる段階には至っていないが、授業協力ができた学校では少しずつ信頼関係が築かれ、地域と学校の距離は縮まっている。体験学習の授業を通じて、協力者や高校生等の「おたがいさま bank」登録を増やしていきたい。また、協会が提供できるプログラムの周知を行って、これまでつながっていない学校にも積極的にPRを行っていく。

(5) ボランティア相談機能の充実と地域イベントへの参画

2014年度は様々なイベントでボランティアの積極的な参加を呼びかけ、多くの新しいつながりができた。地域イベントへの参画は、こうしたつながりをつくる活動提供の絶好の機会だと言える。活動への入り口をつくって「おたがいさま bank」への登録につなげていきたい。また、地域包括ケアで実施するプログラムに向けて、福祉事業部との協力がますます必要となってくる。地域の様々なニーズに対応していくために、相談機能を充実させる研修等を実施し、相談の質をあげる努力を重ねていく。そして、日々寄せられる相談や福祉事業部の利用者のニーズに対応する体制を整えて、解決につなげていく。

1. ボランティアセンター事業

(1) ボランティアコーディネート事業

① ボランティア相談

2014年度は、発達障害児の学校内外での学習サポート、通学・通級時の移動の付添いの相談が多くあった。数年前からこの傾向があり、玉川ボランティアビューローで取り組んできた発達障害児とその家族を支援する遊ぼう会等の事業をベースに、区との協働による障害者（児）支援ボランティア養成講座を開催し、ボランティアの育成に取り組んだ。高齢者・障害者では、外出の同行やサポートの依頼が多かった。遠出もあれば日常の外出もあり、外出支援に取り組むNPOの協力を得ながら解決を図った。こうした継続支援を必要とするマッチングには、相談者と活動者の友好な関係を続けるために、活動の環境を整えたり、困った時に相談ができるコーディネーターの存在が必要である。

傾聴ボランティア活動から始まった映画会や夕食会には毎回地域の新しい高齢者の参加があり、これをきっかけに相談につながるケースも多い。元気な高齢者等、一般の福祉サービスの対象とはならない人たちへの支援をボランティアと一緒に考え、取り組んでいく。

＊ 面談受付件数（被災地支援活動は含んでいない）

年度	ボランティア したい	ボランティア 求む	ボランティア求む以外の相談				小 計	合 計
			情報求む	物品提供	学習・協力	その他		
2014	132	96	35	4	24	8	71	299
2013	113	79	59	5	23	10	97	289
2012	122	61	30	5	10	11	56	239

② おたがいさま bank

「おたがいさま bank」の登録者を増やすため、多様なボランティア情報を発信し活動のきっかけを提供した。

ア. 登録者状況

「おたがいさま bank」への登録者(エントリー者及び宣言者)は、2015 年 3 月末現在 881 名であり、エントリー者は 303 名、おたがいさま宣言者は 578 名である。

年度	エントリー数	おたがいさま宣言数	合計
2014	303 名	578 名	881 名
2013	217 名	217 名	434 名
2012	131 名	61 名	192 名

イ. メールマガジン「セタバカわらばん」

「おたがいさま bank」登録者へ向けた定期的な情報配信ツールとしてメールマガジンの配信を行っている。協会の講座や学習会、イベント等、具体的な活動への参加を呼びかけているが、迷惑メール対策から一斉送信ができなくなり、アドレスの分割作業の必要や一定量のメールがはねられてしまうことからメールが届かない状況が生まれてしまった。2015 年度はこの点も改良して多彩な情報提供を行っていく。

③ イブニングプログラム事業

ボランティアセンターの夜間時間帯を有効に活用し、地域の人たちが気軽に参加できるボランティア活動のきっかけとなる機会を提供した。

曜日	テーマ	内 容	回数	参加者数
火	災害ボランティア活動相談	被災地支援等、災害ボランティア活動の相談、無人ショップの商品管理、区内外の各団体から寄せられる通信物、配布依頼資料等の整理	37 回	延べ 74 名
水	編み物ボランティア「ニットカフェ」	緩やかに地域とのつながりをつくるプログラムとして、提供される毛糸の再利用も兼ねた編み物カフェの開催	50 回	延べ 333 名

④ 傾聴ボランティア

ア. 傾聴ボランティアの派遣

ひとり暮らしや日中独居高齢者の精神的なサポートを行うため、傾聴ボランティアの派遣を実施した。関係機関の協力を得て傾聴ボランティアのニーズを募集し、2014 年度は 33 件の相談があった。訪問とコーディネートを行い、傾聴ボランティアの活動につなげている。家族を亡くされた方、在宅での介護を希望された方、認知症の方等、ボランティア活動者の負担が大きく、サポートのあり方を考えるきっかけになった事例があった。

イ. フォロー講座

傾聴ボランティア講座終了後の活動者を対象に、活動中の出来事や困りごとを共有しながら学習する機会として、見学、ロールプレイ、グループワーク、講習会、ケース検討等を行うフォロー講座を実施した。(参加者数：4月7名、6月6名、10月4名、12月5名、2月4名)

ウ. しもうま名画座

高齢者から地域で緩やかに集まる機会をつくりたいとの希望があり、近隣の日常的なかかわりをつくるために、傾聴ボランティアによるサロン「しもうま名画座」を隔月第3金曜日に企画・実施している。(参加者数：5月10名、7月14名、9月16名、11月17名、1月10名、3月9名)

エ. しもうま夕ごはん会

「夕ごはんを独りで食べるのがつらい」という相談と、「365 日 3 食ひとりで食事されていると思うと心が痛い」という傾聴ボランティアの声から夕食会「しもうま夕ごはん会」を毎月第3火曜日に企画・実施している。(参加者延べ 148 名 協力者延べ 82 名 他 29 名)

オ. 傾聴ボランティア講座

地域の傾聴ニーズに応えるため、ワークショップやロールプレイを中心とした傾聴ボランティアの養成講座を開催した。

実施日	内 容	参加者数
2/4	「相手」の理解	6 名
2/18	言葉や態度の理解	
2/25	聴き方の理解	
3/4	傾聴の体験	
3/11	価値観の違い	
3/18	活動に向けて	

⑤ 発達障害のある方と一緒に活動するボランティア養成講座

発達障害や精神障害等で生きにくさを抱えている人が安心して参加できるボランティア活動の場をつくることを目的に、区の担当課や関係機関、ボランティアビューロースタッフとともにボランティア養成講座を行った。講座後も月1回のミーティングを行い、2015年度の活動を検討している。

実施日	内 容	協力者数	参加者数
11/6	ボランティアって何？	11 名 7 団体	15 名
11/13	発達障害について		
11/20	よい関係づくりのヒント		
11/21～12/9	ふれあい体験		
12/11	今後の活動にむけて		

(2) ボランティア情報ネットワーク事業

ボランティアに関する情報センターとして、活動に必要な知識、団体の活動情報等を収集し、提供した。「おたがいさま bank」登録者に向けてメールマガジンを利用して活動情報の提供を行った。情報誌「セボネ」の特集とも効果的に絡めて活動希望のニーズや社会の状況に対応した情報発信に努めた。

① ボランティア情報誌「セタガヤ・ボランティア・ネットワーク＝セボネ」の発行

「人が変わる社会が変わる」をコンセプトに、生活のあらゆる場面からボランティアを身近に感じてもらうための情報誌「セボネ」を毎月約4,500部発行した。特集記事や団体紹介等の掲載内容の検討にあたっては、ボランティアの編集委員による編集会議を毎月開催し、誌面の充実を図った。

***セボネ編集委員：**星野弥生、佐藤研資、市川徹、家井雪子、鈴木朋子、新井英明、小川宏、迫雅之

***編集会議開催日：**4/15、5/21、6/18、7/16、8/19、9/16、10/21、11/19、1/13、2/18、3/11

***発送作業ボランティア** 延べ88名

発行月	誌 面 内 容
4月号 イラスト 箕島恵美	特集＝障害者支援ボランティア養成講座 ～ボランティアの一步、ここからはじめてみませんか？～ せたがやキラリ人＝山本知佳子 まちの市民力！＝S. S. TASQ（タスク）
5月号 イラスト 姫野はやみ	特集＝傾聴ボランティアとしての「看取り」を考える せたがやキラリ人＝中馬和子 まちの市民力！＝NPOフリースクール僕んち

6月号 イラスト 堀 道広	特集＝小学生だってボランティア ナツボラ・ジュニア せたがやキラリ人＝松下泰樹 世田谷ボランティアセンタースタッフ紹介
7月号 イラスト 先斗ポン太	特集＝自然エネルギー活用の可能性～世田谷区みうら太陽光発電所訪問～ せたがやキラリ人＝永井憲一 まちの市民力！＝NPOコモンビート
8月号 イラスト 越智あやこ	特集＝地域の子どもを真ん中に～せたがやチャイルドラインフリーダイヤル キャンペーン～ せたがやキラリ人＝南秀治 まちの市民力！＝北沢おせっかいクラブ
9月号 イラスト ノグチユミコ	特集＝農産物で農村と都市をつなぐ せたがやキラリ人＝池田あすえ まちの市民力！＝やおまんキッチン
10月号 イラスト あしたのんき	特集＝世界中の女の子に、生きていく力を～10月11日は国際ガールズ・デー～ せたがやキラリ人＝吉田恵子 まちの市民力！＝グラクソ・スミスクライン(株)
11月号 イラスト いわがみ綾子	特集＝伊那の谷・風の学校ワークキャンプレポート せたがやキラリ人＝松倉美佐子 まちの市民力！＝ここからカフェ
12月号 イラスト 一楽恭子	特集＝「地域包括ケア」ってなんだろう？～当事者とともに、あらゆる世代が 暮らしやすいせたがやをつくろう～ せたがやキラリ人＝水上真衣 まちの市民力！＝バリアフリー映画祭実行委員会 Change Your Heart
1月号 イラスト おおの麻里	特集＝都市型災害に学び、次なる災害にそなえる～阪神大震災から20年、災害 につよい世田谷をつくろう～ せたがやキラリ人＝飯島欣子 まちの市民力！＝タガヤセ大蔵
2月号 イラスト 河井いづみ	特集＝みんなで食べよう夕ごはん～「しもうま夕ごはん会」の1年～ せたがやキラリ人＝新澤克憲 まちの市民力！＝日大文理学部社会学科 後藤ゼミ
3月号 イラスト 山田茉莉	特集＝世田谷における「若者支援」の現在 せたがやキラリ人＝サクマタカシ まちの市民力！＝緑のダム北相模

② 協会ホームページの運営

ホームページ「おたがいさま WEB」でのボランティア情報発信、各拠点や事業のブログによる報告と情報発信を行った。また、ホームページのトップページとボランティア情報ページを改良した。

年 度	2014	2013	2012
ホームページからの投稿	794 件	460 件	354 件
メールでの問合せ	100 件	108 件	107 件

③ ボランティア・市民活動情報の収集と掲示・展示コーナーの設置運営

区内外の市民団体や関係機関の資料を収集し、広く活用を促すとともに、書籍等の出版物の展示・販売を行った。また、掲示・展示コーナーを設けて、協会に寄せられる市民団体や地域活動情報を提供した。加えて、区内の屋外イベント等でもブースを設置し、様々なボランティア活動や講座等の情報提供を行った。

(3) ボランティア学習事業

区内の学校から寄せられる総合的な学習の時間の相談に対して、プログラムを開発し提供した。学生のボランティア支援に力を入れる大学も増えており、学生や大学のボランティア推進窓口との連携をすすめている。

① 総合学習・奉仕体験活動コーディネート

ア. 世田谷学園中学校への授業協力

2年生 221 名を対象に「ボランティア体験授業」の企画運営ならびに事前学習のコーディネートをを行った。

実施日	内 容
5/26	「ボランティア体験授業のながれ」についての説明、協会職員 1 名
6/6 7/3	体験プログラム () 内は実施団体 ①聞こえの学習と手話の体験 (世田谷区聴覚障害者協会) ②アイマスク体験 (世田谷ボランティア協会) ③車いす体験 (世田谷福祉専門学校) ④講話：金重泰行 (Live One's Own Life Piece) ⑤中学 3 年生によるボランティア体験談 ⑥DVD 学習「道徳ドキュメント 家族ではないけれど」
7/18	マナートレーニング 活動分野別オリエンテーション ①高齢者分野：高野康生 (きたざわ苑) ②障害者分野：金子雅則 (三宿つくしんぼホーム) ③児童分野：吉澤隆幸 (鳩ぽっぽ保育園) ④その他の分野：協会職員 1 名

イ. 日本女子体育大学附属二階堂高校への授業協力

保健福祉コース (福祉・看護・保育) の 1 年生 46 名を対象に、ボランティアについて学ぶ「ボランティア入門講座」を実施した。

実施日	内 容
4/16	ボランティア活動についての講義、コミュニケーショントレーニング、ボランティア活動体験談 講師：大学生 2 名、協会職員 2 名

ウ. 都立世田谷総合高校への授業協力

2 年生 240 名を対象に「奉仕」の授業の企画運営、グループ別学習のコーディネートをを行った。また、協力団体と学校とで構成される「地域連携奉仕委員会」にも出席し、地域と学校の連携をサポートした。

実施日	内 容
4/11	奉仕体験活動について・高校生の地域活動の紹介・まち歩きの前学習 講師：協会職員 1 名
5/2	学校周辺をテーマ毎にまち歩き
5/9	まち歩きのマップづくり
5/30	マップの発表
6/13	ボランティア講話、グループ別学習説明会 協力 7 団体：アロマボランティアグループ LAVANDURA、ウェブベルマーク協会、世田谷トラストまちづくり、せたがや水辺の楽校、二子玉川商店街振興組合、地域活性化支援協会プラリト、プランジャパン
9/5、12 10/10、17、 31	グループ活動①～⑤ (上記 7 団体、二子玉川小学校)

11/7	事後学習、体験のまとめ
11/21	奉仕のまとめの発表

エ. 都立桜町高校（定時制）への授業協力

1年生を対象に、「奉仕」の授業に協力した。

実施日	内 容	対象
5/19	「災害とボランティア」講話とグループワーク 講師：松下泰樹（大学生）	10名
6/23	「災害とボランティア」ケーススタディとグループワーク 講師：松下泰樹（大学生）	10名

オ. 目黒星美学園高校への授業協力

1年生71名を対象に、夏休みのボランティア体験学習の事前指導として、ボランティア体験を行う際の心構えや注意点、活動の探し方について講話を行った。

実施日	内 容	対象
5/20	ボランティア体験事前学習 講師：協会職員1名	71名

カ. 昭和女子高校への授業協力

2014年度より新たに取り組みの始まった「サービスマーケティング」という社会貢献型体験学習の導入として、2年生に対しボランティア入門講座を行った。

実施日	内 容	対象
5/27	ボランティアについて、活動の種類や事例の紹介 講師：協会職員1名	440名
7/1	総合的な学習「ボランティア」活動の紹介や体験への姿勢づくり	14名

キ. 都立芦花高校への授業協力

1年生240名を対象にした「奉仕」の授業で防災教育の企画運営を行った。

実施日	内 容	対象
10/17	オリエンテーション「秋の『奉仕』防災体験活動」 講師：協会職員1名	
10/31、 11/7、14	体験活動プログラム ① 救急救命講習（国士舘大学） ② 災害ボランティアの安全衛生講話 講師：篠崎博（日本ファーストエイドソサエティ） ③ マンホールトイレの組み立てとまち歩き 場所：千歳中学、希望ヶ丘公園、廻沢公園、上祖師谷パンダ公園 組み立て指導：砧総合支所地域振興・防災担当 鳥山総合支所地域振興・防災担当 協力者：地域防災活動者、世田谷環境学習会、青少年委員、大学生 延べ20名	

ク. 普連土学園中学校

3年生134名を対象に、一日奉仕体験学習の事前指導として、ボランティア体験を行う際の心構えや注意点、コミュニケーションについて講話を行った。

実施日	内 容	対象
1/22	ボランティア体験事前学習 講師：協会職員1名	134名

ケ. 都立千歳丘高校への授業協力

1年生を対象に、「奉仕」の授業に協力した。

実施日	内 容	対象
3/19	ボランティア活動についての講義、大学生によるボランティア体験談 講師：協会職員1名、協力：大学生15名	280名

コ. 区内小学校への授業協力

実施日	内 容	対象
9/18	アイマスク体験「できること探し」講師：協会職員 1 名	81 名 赤堤小 4 年生
10/3	「視覚障害者の生活と盲導犬について」講師：盲導犬ユーザー	
10/7	点字の学習 講師：点訳ボランティア 2 名	
10/9	「視覚障害者の生活と盲導犬について」講師：盲導犬ユーザー	140 名 桜町小 4 年生
10/14	「聴覚障害者の生活と手話について」 講師：聴覚障害者、手話通訳	
10/22	車いす体験 講師：協会職員 1 名、大学生	
10/31	「身体障害者の生活について」講師：車いすユーザー	
12/19	「視覚障害者の生活と盲導犬について」講師：盲導犬ユーザー 「身体障害者の生活について」講師：車いすユーザー	約 130 名 用賀小 4 年生
2/2	アイマスク体験「できること探し」講師：協会職員 1 名	64 名 中町小 4 年生
2/4	「聴覚障害者の生活と手話について」講師：聴覚障害者、手話通訳	
2/18	「視覚障害者の生活と盲導犬について」講師：盲導犬ユーザー	

② 「夏のボランティア体験プログラム」(ナツボラ 2014)

区内に在住在学の中学生から大学生及び 30 歳くらいまでの青少年を対象に、ボランティア体験のプログラムを企画・実施した。

実 施 日	内 容
6/24	受入団体説明会（2013 年度の報告、2014 年度の変更点・留意点の説明、質疑応答、7 団体 7 名参加、世田谷学園中学より教諭 2 名参加） 会場：世田谷ボランティアセンター
7/6、13	申込受付、オリエンテーション（追加申込日：7/23、7/26、7/30、8/5、8/7） 会場：世田谷ボランティアセンター 参加者：268 名、参加述べ件数：290 件
7/22 ～8/31	活動先：78 か所（高齢者関係 18 か所、障害者関係 28 か所、児童関係 27 か所、環境・国際・災害等 5 か所）
8/30	活動報告会：参加者 22 名、会場：世田谷ボランティアセンター

③ せたがやキャンパス・ネットワーク

ア. せたがやキャンパス・ネットワーク 学生ボランティアミーティング

区内で活動する大学生のネットワークをつくることを目的に集まり、情報交換やグループディスカッションを行った。5 月からは学生メンバーが内容を企画し、月 2 回の定例ミーティングの他、「交流会」「まちあるき」「広報」チームにわかれて、企画ミーティングを重ね、3 回の学生交流会を実施した。定例ミーティングの実施日（7/8、7/22、8/26、9/9、9/30、10/14、10/28、11/11、11/25、12/9、12/27、1/13、2/10、2/24、3/10、3/24）

実施日	内 容	参加者数
4/17	活動事例報告、グループディスカッション	23 名
5/27	活動事例報告、グループディスカッション	25 名
6/24	第 1 回せたがや学生交流会 内容：活動事例報告、「国際」「災害」「地域」「福祉」の活動 分野別体験談 会場：産業能率大学 IVY ホール	42 名

8/12	活動事例報告、カレーづくり&非常食体験	17名
10/18	第2回せたがや学生交流会 内容：「国際」「災害」「地域」「福祉」「子ども」の活動分野別体験談、グループディスカッション、My 宣言 会場：昭和女子大学	46名
1/15	第3回せたがや学生交流会 内容：「国際」「災害」「地域」「子ども」の活動分野別体験談、グループディスカッション、My 宣言 会場：東京都市大学	33名

イ. 産業能率大学

学生サービスセンターが主催するボランティアガイダンスに協力した。

実施日	内 容	対象
4/5	新入生のためのボランティアオリエンテーション 講師：協会職員1名	116名
6/12	ナツボラ説明会 講師：協会職員1名	10名

「社会貢献とボランティア活動」の授業でボランティアについて講義した。

実施日	内 容	対象
10/21	ボランティアについて、世田谷ボランティア協会の紹介、ボランティア活動の多様性と始め方、センターの活用方法、ボランティア活動の意義 講師：協会職員1名	170名

ウ. 日本女子体育大学

「ボランティア活動論」の授業2コマに協力した。

実施日	内 容	対象
6/17	世田谷ボランティアセンターの紹介、ボランティアコーディネーターの仕事、ナツボラの紹介 講師：協会職員1名	197名 240名

エ. 明治大学

大学のボランティアセンターのプログラムに協力した。

実施日	内 容	対象
5/15	地域でのボランティア活動の紹介と当事者体験と当事者のお話	7名
5/27	講師：協会職員1名、協力者1名	4名

オ. 昭和女子大学

「NPOマネジメント論」の授業で、区内のNPO法人の実態について講義した。

実施日	内 容	対象
6/12	世田谷区内のNPO法人について 講師：協会職員1名	22名

(4) せたがや災害ボランティアセンター事業

災害ボランティアセンターの目指す活動について、運営委員会が課題の認識を共有して議論を活性化することができるよう、10月からは常設部会制を廃止し、運営委員会内に必要に応じてワーキングチームを組織して比較的短期間で試案をまとめ、それをもとに運営委員会で審議するという体制に変更した。

検討すべき課題、試行錯誤を経るべき課題は山積しており、優先順位を考えながら機動力のある活動、地域との連携につながる活動を目指している。

① 運営委員会・合同部会の開催（4月～9月）

各部会の進捗状況や課題の共有のため、合同部会を開催した。

開催日	内 容
4/24、6/4、7/9、 8/19、9/11	2013 年度のふり返りと 2014 年度の活動予定、各部会の報告、全体に関する協議・連絡等を行った。

② 部会の開催（4月～9月）

部会が取り組んできた作成物の確認作業や 2014 年度の活動についてそれぞれの部会で検討を行った。

ア. 本部運営部会

開催日	内 容
4/1、5/13、6/3、 8/5、9/2	ボランティア本部の運営マニュアルや各部会が検討する課題をどのように解決していくのか協議した。

*部会メンバー：横山康博（部会長）、中澤幸雄、星野弥生、村上ノブ子、黒田明敏

イ. 避難所支援部会

開催日	内 容
4/9	「避難所における困りごと事例と解決のためのヒント集」（以下の表では「ヒント集」と略す。）の編集作業を行った。

*部会メンバー：宮崎猛志（部会長）、染野和夫、上田幹郎、清水裕、菊池頭太郎、齋藤エミ、齋藤大輔、後藤順一

*6月以降は、本部運営部会が引き取り、校正作業を行った。

ウ. マッチングセンター部会

開催日	内 容
4/16、5/23、6/24、 7/23	マッチングコーディネーター養成講座のカリキュラムとテキストの作成、発災時のマッチングセンター設置場所等の検討を行った。

*部会メンバー：大河内保雪（部会長）、興梠寛、佐藤百合子、長谷川憲、松下泰樹

エ. 特別支援部会

開催日	内 容
4/23、6/25、8/27	2013 年度のふり返りから 2014 年度の活動や部会メンバーについて協議した。また、要援護者支援について世田谷区との意見交換実施の準備を行った。

*部会メンバー：荻野陽一（部会長）、森江葉子、三井美和子、鷹林茂男、山本学

③ 運営委員会の開催（10月～3月）

各ワーキングチームからの報告、連絡、決定。運営に関する協議等。

開催日	内 容
10/22、11/19、12/16 1/14、2/13、3/25	ワーキングチームの設置案の検討、「ヒント集」の配布について検討、各ワーキングチームの進捗状況の報告

*運営委員：横山康博（運営委員長）、菊池頭太郎、黒田明敏、清水 裕、中澤幸雄、染野和夫、興梠 寛、星野弥生、伊藤 高、地頭所知子、浅見 裕、大河内保雪、佐藤百合子、島村雅之、松下泰樹、村上ノブ子、竹内和子、長谷川 憲、宮崎猛志、矢野裕介、上田幹郎、川名あき、三井美和子、山本 瞳、金子 浩、後藤順一、齋藤竹美

④ ワーキングチームの開催（10月～3月）

ア. ワーキングチーム①

開催日	内 容
11/4、11/19	「ヒント集」の配布先、配布方法、具体的な利用方法の検討

*メンバー：横山康博、菊池頭太郎、黒田明敏、清水 裕、中澤幸雄

イ. ワーキングチーム②

開催日	内 容
11/12、12/10、1/20、 2/10	ボランティア派遣要請が考えられる支援活動の想定、及びせたがや災害ボランティアセンターのマッチングセンターが受け入れたボランティアであることの表章方法の検討

*メンバー：横山康博、染野和夫、興梠 寛、星野弥生

ウ. ワーキングチーム③

開催日	内 容
10/30、11/13、12/2 1/9、1/29、2/17	災害発生時の支援要請の受付・ボランティアの受付からマッチング→現場派遣→センター帰着・報告までの事務処理の要領・システムの検討

*メンバー：横山康博、大河内保雪、佐藤百合子、島村雅之、中澤幸雄、松下泰樹、村上ノブ子

エ. ワーキングチーム④

開催日	内 容
11/6、11/28、12/17 1/27、2/18、3/11 3/25	マッチングコーディネーター養成講座の実施要領の検討

*メンバー：横山康博、長谷川 憲、宮崎猛志、興梠 寛、松下泰樹

オ. ワーキングチーム⑤

開催日	内 容
10/28、11/4、11/26、 12/17、1/21、2/12、 2/24	災害時要援護者が、在宅避難中に直面する困りごとの想定

*メンバー：横山康博、黒田明敏、清水 裕、染野和夫、上田幹郎、川名あき、三井美和子、山本 瞳

カ. ワーキングチーム⑥

開催日	内 容
12/16	世田谷区社会福祉協議会とのイベントについての検討

*メンバー：横山康博、黒田明敏、中澤幸雄、松下泰樹

キ. ワーキングチーム⑧

開催日	内 容
3/12	避難所、個人家庭、商店街等から、ボランティアに支援を要請する方法、仕組みを決定しその周知を図る

*メンバー：横山康博、上田幹郎、黒田明敏、染野和夫、中澤幸雄、三井美和子

ク. ワーキングチーム⑩

開催日	内 容
3/20	高校生や中学生による地域での災害ボランティア活動プログラムをつくり、参加を促進する

*メンバー：横山康博、大河内保雪、金子 浩、清水 裕、島村雅之、長谷川 憲

ケ. ワーキングチーム⑪

開催日	内 容
3/10	せたがや災害ボランティアセンターについての協会ホームページを検証し改善を図る

*メンバー：横山康博、佐藤百合子、村上ノブ子

*ワーキングチーム⑦、⑨は2015年4月より開催。

⑤ 防災や災害ボランティアに関する啓発活動

東日本大震災で避難所支援を行った専門ボランティア活動報告、まち歩きによる学校周辺の点検活動、マンホールトイレの設置訓練等のプログラムと、せたがや災害ボランティアセンターの紹介、活動への参加呼びかけ等を行った。

実施日	対 象
4/25	都立日本橋高校
5/19、6/23	都立桜町高校定時制
10/17、31、11/7、14	都立芦花高校
12/19	日本女子体育大学附属二階堂高校

⑥ 東日本大震災被災地支援活動

ア. 被災地交流支援活動

福島県川内村との交流支援活動を行った。

実施日と参加人数	主な内容
① 5/31～6/1(8名)、② 7/5～6(11名)、③ 7/19～20(4名)、 ④ 8/9～10(9名)、⑤ 9/13～14(8名)、⑥ 10/18～19(4名)、 ⑦ 11/22～23(9名) ⑧ 12/20～21(5名) ⑨ 3/21～22(6名) 延べ 64 名	コスモス畑づくり、村内施設の清掃、祭礼への参加、廃ビニールハウス解体等

イ. 女川町学生ワークキャンプ

昭和女子大学コミュニティサービスラーニングセンターと協力して、宮城県女川町で「学生ボランティアワークキャンプ」を実施した。「おながわの鳴り砂を守る会」や「女川つながる図書館」、「女川桜守りの会」、「女川町教育委員会生涯学習課」の協力を得て海岸清掃や図書整備、桜講演の清掃、夏休み中の子どもたちの支援等を行った。

(8月6日～10日 参加 25 名 引率 2 名 看護師 1 名)

⑦ 世田谷区と連絡協議会の開催

世田谷区との連絡協議会を開催して、被災者からのボランティア要請の受け入れ方法やマッチングセンターの開設場所と機能、災害ボランティアセンターと世田谷区との連絡・連携方法等について意見交換を行った。(5月29日、10月31日、2月13日)

⑧ 「マッチングコーディネーター養成講座」のカリキュラムとテキストの作成

マッチングセンター部会で検討していた「マッチングコーディネーター養成講座」のカリキュラムとテキストが完成した。今後これらを用いて、マッチングセンターの協定を締結した大学の学生や地元町会・自治会、地域住民等を対象に「マッチングコーディネーター養成講座」を実施する。

⑨ 「避難所における困りごと事例と解決のためのヒント集」の発行

災害時に避難所で起こるであろう困りごととその対応のヒントをまとめた冊子「避難所における困りごと事例と解決のためのヒント集」を 3000 部発行し、世田谷区の全出張所・まちづくりセンターと、区内の全町会・自治会へ配布した。

⑩ 「忘れない3. 11 世田谷における災害時を考える」の開催

災害が起きたときに福祉的なサポートが必要な人たちが困ることや抱えている不安を知り、地域ができることを考えるため、世田谷区社会福祉協議会と共催して、3月1日に北沢タウンホールで、トークセッション、世田谷パブリックシアターの協力のもと中学・大学生による災害時の寸劇の実施、災害グッズの販売等を行った。

⑪ 「災害時の地域とボランティアの連携について語る会」の開催

日本体育大学・世田谷区・世田谷ボランティア協会の間で、災害時のボランティアマッチングセンター開設に関する三者協定が締結されたことを踏まえて、災害時のボランティア活動、マッチングセンターの役割等について、地元住民に周知することを主な目的に日本体育大学の教室を会場に開催した。地元町会・自治会役員や民生・児童委員等、地域の方々との意見交換

の場を持つことができた。

開催日	開催場所	参加者数
3月28日	日本体育大学	37名

(5) 地域連携促進事業

① 自主活動への支援

区民・団体の自主活動を支援するため、会議室や機材の提供等を行った。

ア. 場の提供

年度	開所日数	利用人数	利用団体
2014	294日 月平均 25日	延べ 18,466名 月平均 1,539名	延べ 1,364団体 月平均 114団体
2013	292日 月平均 24日	延べ 18,577名 月平均 1,548名	延べ 1,500団体 月平均 125団体
2012	295日 月平均 25日	延べ 20,460名 月平均 1,705名	延べ 1,494団体 月平均 124団体

イ. 機材の提供

器材名	件数	器材名	件数
インターネット	59	プロジェクター	65
厨房	47	ワイヤレスマイク	5
CDコンボ	42	スクリーン	58
合計			276

② せたがやふるさと区民まつり

8月2日と3日に馬事公苑で行われた「せたがやふるさと区民まつり2014」に参加し、リサイクルの衣料やバッグ、ネクタイの販売を行い、また、子ども向けにスライムづくりと輪投げコーナーを行った。延べ25名のボランティアの協力を得てブースを運営し、自主財源づくりに努めた。

③ エテマルシェ

8月30日にケアセンターふらっとで行われた夏祭り「エテマルシェ」に参加し、ナツボラ参加者によるポップコーン販売と、ボランティアによる焼きそば販売を行い、高次脳機能障害及び「コージーズ」の活動を知ってもらうためのイベントの集客に協力した。

④ 第39回雑居まつり

10月12日に羽根木公園で行われた「第39回雑居まつり」に参加し、リサイクルバザーを実施した。また、スタンプラリーに参加する子どもたちのための輪投げコーナーを設置して学生ボランティア等の協力で運営した。

⑤ 第18回世田谷アートタウン2014「三茶de大道芸」への協力

10月18、19日に行われた「三茶de大道芸」に、地域住民との協力や協会の周知を目的に参加し、太子堂一丁目公園で模擬店(ポップコーン、飲み物)とバザーを行った。商店街の方や地域のボランティアの協力を得て、ボランティアセンターやリサイクル市のPRも実施した。

⑥ おたがいさまフェスタ2015

3月15日にパーム下馬に入居する団体のPRと、市民活動団体と地域住民との交流を図るため、ケアセンターふらっと、下馬福祉工房とともに「おたがいさまフェスタ2015」を開催した。22団体(うち新規6団体)の参加があり、約500名の来場者があった。ボランティア参加者数は前日準備も含め延べ54名。2014年度初めて、下馬二丁目北町会、世田谷消防団14分団、世田谷消防署三宿出張所、世田谷総合支所地域振興課防災担当の協力を得て、防災体験コーナーを実施。体験者数は180名と好評だった。また、ボランティアセンターの企画として、地域に住む多様な立場の方の話を聞くコーナー「みんなで、話をきいてみよう!」を行った。

タイトル	ゲスト
日本とイギリス～セクシャルマイノリティとしてくらすこと	世田谷区在住男性
プロに聞く！災害への備え方	災害ボランティア

(6) パートナースhip事業

① 世田谷市民活動支援会議への参加

世田谷区内の中間支援機関と行政が集まり、情報交換と活動内容を話し合う月1回の定例会議（5/22、9/18、11/18、12/18、1/20）とワーキング（6/12、10/17、2/18）に参加した。

***参加団体・組織：**世田谷区社会福祉協議会、世田谷文化生活情報センター・生活工房、世田谷NPO法人協議会（事務局）、世田谷トラストまちづくり、国際ボランティア学生協会、NPO昭和、市民活動推進課、生涯現役推進課、世田谷ボランティア協会

② ボランティア体験研修への協力

東京ボランティア・市民活動センターが三菱東京UFJ銀行から受託し実施する、新任行員ボランティア体験研修へ協力した。参加した32名の行員に対し地域の福祉施設・NPO団体の体験受け入れ先の紹介、体験中の参加者の様子の確認、活動総括でのアドバイスをを行った。

実施日	体験活動先	参加者数
5/20 5/22	きたざわ苑／ケアセンターwith／すまいる梅丘／ケアセンターふらっと／下馬福祉工房／給田福祉園／藍工房／パイ焼き窯 計8施設で受け入れ	32名
5/23	振り返り研修（活動総括）、体験先の活動内容と気づきを体験先ごとでまとめ発表	

③ 世田谷区教育委員会学校支援員研修への協力

4月10日に世田谷ボランティアセンターで、学校支援員26名への車いす研修を実施した。

④ 第32回全国民間ボランティア・市民活動推進団体会議への参画

8月23日、24日に山梨県ボランティア・NPOセンターで「中間支援ができる生活困窮者問題」をテーマに開催した会議へ、実行委員会世話団体として参画した。

⑤ 世田谷区職員採用1年目「福祉体験」研修

9月18日から12月4日まで、全6回で世田谷区職員採用1年目「福祉体験」研修を実施した。世田谷ボランティアセンターとその周辺地域において、車いす、アイマスク、聞こえない体験から介助について学んだ。さらに当事者講師を交えたグループディスカッションをとおして、地域には様々な立場や環境で生活している人たちがいることに気づいてもらい、どのように誰もが暮らしやすい世田谷をつくっていくか考える機会を提供した。

研修生183名 当事者講師延べ34名

⑥ 施設、団体、NPO、機関等への職員派遣協力

派遣先	内 容	人数	回数
世田谷区社会福祉協議会	子育て施策検討会	1名	2
世田谷市民活動支援会議	参加団体	1名	8
せたがやふるさと区民まつり福祉部会	参加団体	1名	1
権 評議員会	評議員	1名	4
小泉公園ふれあいフェスタ実行委員会	参加団体	1名	3
市民社会をつくるボランタリーフォーラム tokyo2015	実行委員	1名	10
せたがや子育てネット	事業検討委員	1名	7
江戸川総合人生大学	講師	1名	1

⑦ 視察・見学の受け入れ

実施日	名 称	人数
9/18	世田谷区職員採用2年目研修調査研究のための取材	8名

11/25	江戸川総合人生大学 地域活動とボランティア活動の取材調査	25 名
-------	------------------------------	------

⑧ インターンシップの受入

産業能率大学の学生 1 名をインターンとして 8 月 19 日から 9 月 2 日の 10 日間受け入れた。災害ボランティアセンターのナツボラプログラムや、ナツボラ全体の運営・訪問、報告会の企画・実施に関わり、ボランティアセンターの事業や活動について理解し経験する機会を提供した。

⑨ ふくしまっ子リフレッシュ in 世田谷の共催

「福島の子どもたちとともに・世田谷の会」が学校の長期休暇ごとに福島の子どもたちを世田谷に招いて屋外で遊んでもらうプログラムを共催した。(夏休み 8/12～15・8/19～22、冬休み 12/23～26、春休み 3/26～31)

(7) コミュニティ・ビジネス事業

① リサイクル市の開催

リユース活動の推進と、バザーで買い物することでボランティア活動につながる機会を提供することを目的に、バザーグループ「てんとう虫」の協力を得て、世田谷ボランティアセンターで「リサイクル市」を開催した。町会やまちづくりセンターから継続的な協力をいただき、回覧板や広報板による広報を行って、来場者増加につなげた。地域の子育て世代の来場も定着している。

実施日	来場者数	売り上げ
5/22	250	436,015 円
9/25	246	488,544 円
11/27	295	497,765 円
2/26	252	504,250 円

② 烏山もったいないバザーの開催

「ささえる会」との共催で、地域の福祉団体・施設の参加を募り、「もったいない」をテーマにバザーを準備した。前日からの雨で参加を見送る団体が多かったが、3 団体が参加した。また、参加団体が少なかったため報告会は中止した。

実施日	内 容		団体数
5/8	説明会	スケジュール確認、諸注意連絡、出店配置等	14 団体
6/7	烏山もったいないバザー	バザー、被災地支援物産品販売	3 団体

*参加団体：パパラギ、東京ガス首都圏西地域安全衛生協力会、S.S.TASQ

③ コミュニティ・ビジネス活動

ア. 各種商品の販売

協会の様々な活動を知ってもらうきっかけづくりとして「おたがいさま煎餅」の販売やリサイクルを目的として、毛糸等の販売を行った。

(おたがいさま煎餅、ウエス、毛糸等販売：計 132,710 円)

(8) 職員研修（ボランティアビューロー職員の研修を含む）

① 内部研修

研修名・講師	参加人数
ボランティアコーディネーターのための「ファシリテーション体験」 講師：早川照子（元いのちの電話スーパーバイザー）全 6 回	延べ 31 名
ボランティアコーディネーターのための「スーパービジョン研修」 講師：山本多賀子（チャイルドライン運営委員）全 3 回	延べ 23 名
協会の設立時と活動グループのネットワークについて学ぶ 講師：澤畑勉（協会理事）、矢郷恵子（協会評議員）	9 名

ボランティアコーディネートのためのネットワークづくり 講師：山崎富一（笑顔せたがや事務局長）	10 名
個人情報の取り扱いについて 講師：牧野和夫（弁護士）	6 名

② 外部研修

研修名	主催団体等	参加人数
地域に根ざす中間支援組織スタッフのための支援力 アップ塾「情報を発信する力」	東京都社会福祉協議会	1 名
災害ボランティアコーディネーター養成講座～災害 ボランティアセンターの運営は「広報」で変わる！	東京都社会福祉協議会	1 名
ＯＪＴ推進研修～仕事の中で人を育てる意味を学 び、効果的な実践に取り組もう	東京都社会福祉協議会	1 名

(9) 職員体制

- ・常 勤：ボランティア・市民活動推進部長 1 名、ボランティアコーディネーター 4 名
- ・臨時職員：1 名（週 3 日）

2. ボランティアビューロー事業

より地域に密着したボランティア拠点として、地域の人たちが出会い、ふれあい、学びあう、暮らしに根ざした活動を行った。

(1) 梅丘ボランティアビューロー事業

① ボランティアコーディネート事業

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談に応じるとともに、ボランティア活動を始めたい区民へのきっかけづくりを行った。

ア. ボランティア相談

2014 年度は、事業等で連携・協力していた大学生グループの新規活動者登録ができなかった影響などで人数が大きく減ってしまった。2015 年度はイベントや講座等に高校・大学生の参加を呼びかけていく。

年度	ボランティア したい	ボランティア 求む	ボランティア求む以外の相談				小計	合 計
			情報求む	物品提供	学習・協力	その他		
2014	52	18	5	0	0	8	13	83
2013	81	32	3	0	3	11	17	130
2012	82	33	13	8	1	7	29	144

イ. 梅丘てしごとカフェ ワークショップ

特技や興味を活かして知的・精神障害のある人たちにボランティア活動参加の機会を提供した。8 月にはナツボラジュニアの活動の場として実施した。エコハウスちょきん箱や三茶 de 大道芸のフラッグリサイクルグッズ製作等を行った。（4/4、11、18、25、5/9、16、23、30、7/4、11、18、8/22、11/28、12/5、12、19、26、1/9、16、23、30、2/6、13、20、27、3/6、13、20、27 参加者数延べ 81 名）

ウ. 障害児支援ボランティア養成講座

障害児や支援の必要な児童と関わるボランティアを育成し、障害児支援に興味・関心のある人たちには活動参加の機会を提供した。（6/6、13、20、27、9/5 と 7～8 月中にそれぞれボランティア体験を実施、参加者 20 名）

エ. 障害児支援ボランティア養成講座フォローアップ

障害児や支援の必要な児童と関わるボランティアを養成する講座のフォローとして、ニューズレター「梅ボラ通信」を発行し活動支援を行った。

② ボランティア情報ネットワーク事業

ア. 「梅丘ビューローだより」の発行

地域の人たちに、ボランティアビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を提供するために、「梅丘ビューローだより」を発行した。(毎月1回700部発行)

イ. 地域に発信！梅丘ビューローってこんなことしています

夏休み期間中、小学生と保護者に梅丘ビューローが実施している事業等を紹介するパネルやファイルを作成して内外に掲示し、目で見て知ってもらう機会をつくった。

③ ボランティア学習事業

ア. ナツボラジュニア 2014

地域の小学生と保護者を対象に、地域の身近なボランティア活動やささえ合いの仕組みを体験し知ってもらうことを目的として、ボランティアビューローを拠点に活動しているボランティアグループの協力を得て実施した。

実施日	7月24日～8月31日
協力団体	ひびき、てんとうむし、ニ八会、LAVANDULA、リフォームメイキング和裁 世田谷日本語クラス
参加者数	21名 延べ32名

④ 地域連携促進事業

ア. 自主活動への援助

区民・団体の自主活動を支援するため、会議室や機材の提供等を行った。

開所日数	289日
利用人数	延べ 4,361名
利用団体	延べ 487団体

イ. 梅・夢フェスタフリーマーケットへの参加

梅丘商店街の「梅・夢フェスタフリーマーケット」にボランティアとともに参加し、てしごとカフェやモノづくりボランティアの提供作品、中古衣料や雑貨の販売によるリサイクル推進とボランティアビューローのPRを行った。

実施日	ボランティア数	売り上げ
3/15	6名	18,300円

⑤ コミュニティ・ビジネス事業

ア. 梅丘ビューローバザーの開催

ボランティアとともにリサイクル活動と地域の環境問題を考える機会を提供し、併せてボランティアビューローでの活動のPRを行った。

実施日	来場者数	ボランティア数	売り上げ
11/14～15	延べ272名	事前整理：述べ25名、当日：55名 合計延べ80名	300,030円

イ. ビューローミニバザー

ものづくりボランティアの作品やリサイクル品の販売を実施して、活動機会の提供とリサイクル推進を目指した。2014年度は28,050円の売り上げがあった。

ウ. お徳市&食器市の開催

資源の再利用のためバザー在庫品等の販売を行い、併せてボランティアビューローのPRを行った。

実施日	来場者数	ボランティア数	売り上げ
1/23、24、2/6	延べ93名	延べ13名	51,700円

⑥ 職員体制

- ・臨時職員：4名（週3～4日）

(2) 代田ボランティアビューロー事業

① ボランティアコーディネート事業

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談に応じるとともに、ボランティア活動を始めたい区民へのきっかけづくりを行った。

ア. ボランティア相談

年度	ボランティア したい	ボランティア 求む	ボランティア求む以外の相談				小計	合 計
			情報求む	物品提供	学習・協力	その他		
2014	30	24	29	8	1	28	66	120
2013	38	34	35	10	2	17	64	136
2012	41	25	13	14	0	27	54	120

イ. シニア相談室

高齢者が抱える健康、病気、在宅サービス等の問題について一緒に考えていく「シニア相談室」を開室した。（毎週火曜日）

開室日数	相談件数
42 日	323 件

ウ. オープンスペースくつろぎ「おうちでできるらくらく体操」

特技ボランティアの協力を得て体操教室までなかなか出かけられない高齢者等を対象に地域の交流の機会を提供した。参加者の運動レベルは様々だが、楽しんで身体を動かすことができた。（4/22 参加者9名）

エ. オープンスペース「くつろぎ映画会」

遠くへの外出が難しい地域の独居高齢者が、映画を観ることで、ご近所と言葉を交わす機会をつくるために映画会を実施した。（7/25、9/26 11/28 1/23、3/27 参加者数延べ35名）

オ. オープンスペース「くつろぎクリスマスパーティ」

シニア世代と障害のある若い世代の協力で食事や会場づくりを行い、特技ボランティアも参加して交流を実施した。（12/13 参加者数22名）

カ. ケアする人をささえるためのボランティア入門講座

ボランティア入門編として、ケアする人が楽しみながらみんなでささえ合い、気持ちを共有する場づくりを目指して、パッチフラワーやアロマハンドマッサージ、傾聴といった体験を通して仲間づくりを行った。（6/14、7/12、9/13 10/11 11/15 12/6 参加者数延べ34名）

キ. かんたん昼ごはんの会

代田ビューローで活動していた会食会グループのメンバーによるひとり暮らし高齢者が集まる場づくりを、簡単な昼ご飯づくりをきっかけにして実施した。

（4/3、5/1、6/5、7/3、8/7、9/4、10/2、11/6、12/4、2/5、3/5 参加者数延べ80名）

ク. 発達障害の方と一緒に活動するボランティア養成講座

発達障害の方が就労後も安定した生活を継続していくために、障害の特性を理解して支援する方法を考える講座を実施した。（2/18、25、3/4、11、18 参加者数17名）

ケ. 施設のためのボランティア受け入れポイント講座

高齢・障害者施設が多様なボランティアを受け入れ、活動の継続を考えていくために現場の担当者に声をかけて受け入れのポイントを考える講座を実施した。（3/7 参加者数12名）

コ. 趣味ボラ会「代田テーブルゲームの会」

趣味を活かしたボランティア活動を推進し、活動に対する理解を広げて、活動を始めるきっかけづくりの場を提供した。(1/31、3/14 参加者数延べ23名)

② ボランティア情報ネットワーク事業

ア.「ボランティアだより」の発行

地域の人たちに、ボランティアビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を提供するために、「ボランティアだより」を発行した。(毎月1回1,150部)

③ ボランティア学習事業

ア. ナツボラジュニア 2014

夏休み中の小学生と保護者を対象に、地域の身近なボランティア活動を知ってもらうことを目的として、ボランティアビューローを拠点に活動しているボランティアグループや地域の福祉施設等の協力を得てボランティア体験プログラムを実施した。

実施日	7/22～8/30
協力団体	JCA代田クラス、みんなの手ひだまり、TOY工房どんぐり、リハビリ朗読、ビーズカフェカノン、かんたん昼ご飯の会、きたざわ苑、ちりとてちん&代沢の家
参加者数	13名、延べ19名

④ 地域連携促進事業

ア. 自主活動への援助

区民・団体の自主活動を支援するため、会議室や機材の提供等を行った。

開所日数	289日
利用人数	延べ 9,814名
利用団体	延べ 958団体

イ. 大掃除&忘年会

ビューローを利用しているボランティア同士がつながりを深め、多様な活動への理解を深める機会を提供し、活動への新たな動機づけとなるよう交流会を実施した。

(12/17 参加者数19名)

⑤ コミュニティ・ビジネス事業

ア. 代田ボランティアビューローバザーの開催

リユースをすすめ、ボランティア希望者の受け皿や地域のボランティア活動の機会を広げるためのバザーを実施した。

実施日	来場者数	ボランティア数	売り上げ
5/30～31	延べ247名	事前整理：延べ80名、当日：49名 合計延べ129名	405,130円
10/24～25	延べ221名	事前整理：延べ66名 当日：43名 合計延べ109名	380,085円

イ. ミニバザー「フルール」の開催

ふれあいバザール「フルール」を開催し、地域の人たちとコミュニケーションを図るとともに、リユースをすすめ、ボランティア活動への理解と活動参加の機会を提供していくため、ミニバザーコーナーを設置して販売を行い、2014年度は456,746円の売り上げがあった。

⑥ 職員体制

・臨時職員：4名(週3～4日)

(3) 玉川ボランティアビューロー事業

① ボランティアコーディネート事業

ボランティア活動希望者とボランティアを必要としている個人・グループ・団体等の相談に応じるとともに、ボランティア活動を始めたい区民へのきっかけづくりを行った。

ア. ボランティア相談

玉川ビューローでは、障害児の分野を中心に、いくつものビューロー主催の事業を展開し、多くのボランティア希望者を開拓してきた。2014年度は、こうした事業の一部をボランティアによる自主運営グループに移行する時期であったため、新たなボランティア希望者の数は減少した。

年度	ボランティア したい	ボランティア 求む	ボランティア求む以外の相談				小計	合 計
			情報求む	物品提供	学習・協力	その他		
2014	190	50	11	6	0	28	45	285
2013	249	49	8	10	0	43	61	359
2012	192	100	50	12	4	25	91	383

イ. ボラカフェ

ボランティア活動に興味はあるが、なかなか一歩が踏み出せない人を対象に、毎月第1金曜日に、丁寧に時間をかけ、個々にあったボランティア活動をともに考え、モノづくりを中心に活動し、話し合う場を提供した。ボラカフェのメンバーで玉川ビューローバザーや花みず木フェスティバル、玉川福祉作業所のおまつり等、地域の活動に参加した。(4/4、29、5/2、6/6、7/4、8/1、9/5、10/4、11/7、12/5、1/9、2/6、20、3/6 参加者数延べ80名)

ウ. 傾聴ボランティア学習会

傾聴ボランティア活動の喜びや悩み、活動を分かちあい、活動に必要な学びを深める機会を提供した。(4/9、5/7、7/30、9/3、11/5、1/7、3/25 参加者数延べ45名)

エ. 傾聴ボランティア講座

地域の傾聴ニーズに応えるため、傾聴ボランティアの養成講座を開催した。

実施日	内 容	参加者数
6/11	であう	12名
6/18	ふれあう・言葉／態度	
6/25	違いを知る	
7/2	気持ちを伝える	
7/9	価値観の違い	
7/16	活動に向けて	

オ. 集まれ個性派遊ぼう会

障害のある子どもとその家族の居場所づくりと障害児に関わるボランティア活動のきっかけづくりを目的に「遊ぼう会」を開催した。

実施日	内 容	参加者 (うち保護者)	ボランティア	合計
6/7	臨床美術「水の道を描こう」	13(7)名	10名	23名
1/24	遊ぼう会のお餅つき	17(13)名	19名	36名

カ. 障害児を支援するボランティア養成講座

発達障害のある子どもと関わるボランティアと居場所の不足が地域の課題となっている。障害児とのかかわり方を学び理解者を増やし、支援につなげていくためにボランティア養成講座を開催した。(10/24、31、11/7、28 参加者8名 協力団体5か所)

キ. 障害児支援ボランティア学習会

障害児を支援するボランティア養成講座のフォローとして、活動の悩みや不安、課題を共有し解決を図るための学習会を実施した。(1/30 参加者5名 協力者1名)

ク. せたがや障害児サポーター48 (SSS48)

障害児とその家族へのサポートについて世田谷区の担当課、障害児サポートに関わる人た

ちと協力して学習会を実施した。

実施日	内 容	協力者数	参加者数
4/25	世田谷区発達障害相談・療育センター「げんき」を訪問して「対応の難しい子どもたち」について話をうかがった	4名	6名
7/25	障害児の保護者から子どもと歩んできたこれまでの気持ちの変化やボランティアに対する思いをうかがった	1名	3名
10/23 3/27	障害児と関わるボランティア交流会を実施した	延べ2名	延べ19名

ケ. 障害児（者）相談室

元全国特別支援学校校長会会長を務めたボランティアの協力を得て、障害児の保護者が抱える悩みを相談する場を提供した。

（4/17、5/29、7/10、9/4、10/23、11/28、1/8、2/12、3/12、27 相談者16名）

コ. 心のケアにいきいきボランティア

精神障害や発達障害等で生きにくさを抱えている大人が、地域で活躍できる場をつくるために、玉川ボランティアビューローの会議室でカフェ（「ココカフェ」）を開いたり、学習会を実施した。

（ココカフェ実施日4/11、5/9、6/13、7/11、8/8、9/12、10/10、11/14、12/12、1/9、2/13、3/13 参加者数延べ144名、学習会実施日5/23、7/25、9/19、9/25、10/24、1/23、2/6、3/27 参加者数延べ61名）

サ. 介護している人のための「しゃべり場ホッとカフェ」

傾聴ボランティアと協働して、介護をしている人への癒し・共感・支え合いの場を提供することを目的に開催した。

（4/16、5/21、6/18、7/16、9/17、11/19、12/17、1/21、2/18、3/18 参加者数延べ64名）

② ボランティア情報ネットワーク事業

ア. 「ビューローだより」の発行

地域の人たちに、ボランティアビューロー事業の紹介やボランティア活動の情報を提供するために、「ビューローだより」を発行した。（毎月1回980部発行）

③ ボランティア学習事業

ア. ナツボラジュニア2014

地元の小学生と保護者を対象に、地域のささえ合いを育むことを目的として、ボランティアビューローを拠点に活動しているボランティアグループや地域の福祉施設等の協力を得て、夏休みの期間でボランティア体験プログラムを実施した。

実施日	7/22～8/31
協力団体	あおぞら、JCA土曜クラス、RSの会、エリ・サークル、おはなしたまごの会、ぷらっと三茶、傾聴ボランティア、さつき荘、等々力の家、遊ぼう会&グルンパ
参加者数	51名、延べ81名

④ 地域連携促進事業

ア. 自主活動への支援

区民・団体の自主活動を支援するため、会議室や機材の提供等を行った。

開所日数	289日
利用人数	延べ10,857名
利用団体	延べ747件

イ. 利用者交流会

玉川ビューローを利用するグループ・個人ボランティアの交流会を行い、グループと活動の紹介を行った。それぞれの活動と協会を理解する機会となった。(11/28 参加者 39 名)

ウ. 二子玉川花みず木フェスティバルへの参加

4 月 29 日に、「二子玉川花みず木フェスティバル」に出店して、玉川ボランティアビューローの紹介、ボラカフェの作品販売や子どもたちの制作体験、チャイルドライン等の事業紹介等を行った。

⑤ コミュニティ・ビジネス事業

ア. 玉川ボランティアビューロー春のバザー開催

資源の再利用と誰でも参加できるボランティア活動の機会としてバザーを実施した。

実施日	来場者数	ボランティア	売り上げ
2 月 27 日、28 日	延べ 347 名	事前整理：延べ 84 名 当日：63 名 延べ 147 名	836,850 円

イ. ビューローミニバザー

地域のリサイクル資源の活用にミニバザーを実施して活動の機会を提供した。2014 年度は 135,600 円の売り上げがあった。

⑥ 職員体制

・臨時職員：4 名（週 3～4 日）

3. せたがやチャイルドライン事業

18歳までの子どもがかけると子ども専用の電話「せたがやチャイルドライン」事業を実施した。せたがやチャイルドライン運営委員会を中心に、体制の強化と運営の安定化を図った。

(1) 子どものメッセージを聴く活動

① せたがやチャイルドラインの実施

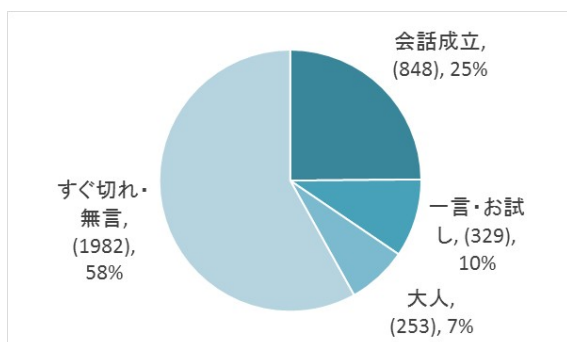
火曜日～土曜日16時～21時に、専用回線の有料ダイヤル（03-3412-4747）と全国フリーダイヤル（0120-99-7777）の2回線で、ボランティア（受け手）が子どもからの電話を受けた。

2014年度にせたがやチャイルドラインで受けた電話の総数は3,412件で、そのうち会話の成立した電話は848件、月平均約70件だった。また、一言だけや試しにかけてきた電話も329件あり、そうした件数を加えると発語があった電話は1,177件だった。主な電話の内容は人間関係が多く、以下、身体のこと、性への興味・関心、性行動、いじめと続いた。また、2014年度に全国71のチャイルドラインで受けた電話の総着信回数は205,832件だった。

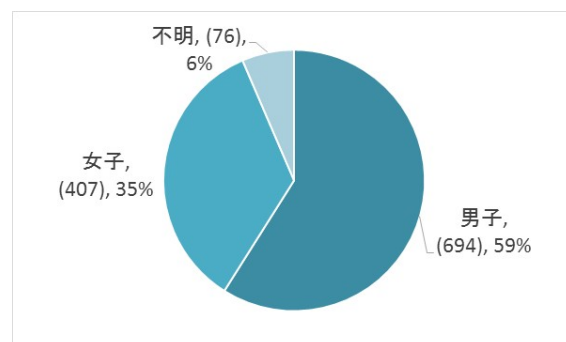
＜年間の着信件数＞

年度	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
2014年	348	238	323	335	212	286	292	297	317	199	259	306	3,412
2013年	372	255	249	303	235	367	272	178	168	220	201	256	3,076
2012年	238	279	348	284	238	219	277	260	187	268	334	357	3,289

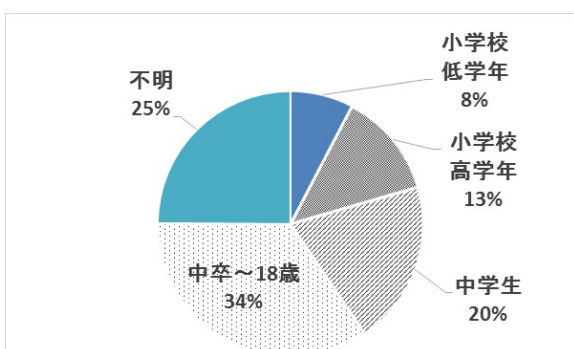
＜電話着信の概要3,412件中＞



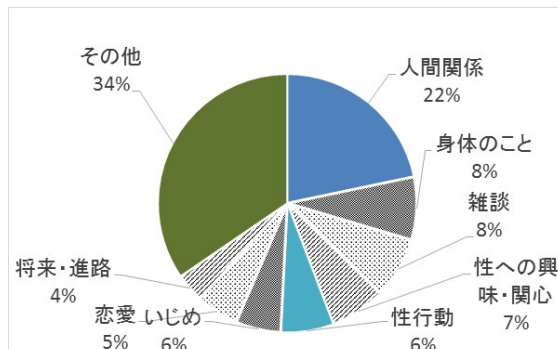
＜会話成立＋一言1,177件中の性別内訳＞



＜会話成立848件の年齢層内訳＞



＜会話成立848件の内容別内訳＞



② 「専用フリーダイヤルキャンペーン」の実施

子どもたちが「いじめ」等の悩みを抱えやすい夏休み明けの1週間、通常の全国共通フリーダイヤルではなく、期間限定で世田谷専用のフリーダイヤル電話を臨時開設した。塾帰りの子どもの生活時間に合わせて、22時までとした。

各学校を通じて子どもたちにキャンペーンチラシを配布して電話番号を周知し、世田谷区内の学校に通う子どもからの声を受けとめた。キャンペーンの広報活動を通して、せたがやチャイルドラインの日頃の活動をお知らせするとともに、運営経費への寄附を広く呼びかけた。キャンペーン後には報告書を作成したが、報告会は開催しなかった。2015年度は、報告会を開催する予定である。

＊キャンペーン期間：9月1日（月）～9月7日（日）17時～22時

＊実際に受けられた電話件数 128 件

（話し中等で受けられなかった件数 50 件、かかってきた合計件数 178 件）

＊総通話時間：690 分（1 通話平均 11.7 分）

＊電話体制：特設フリーダイヤル 2 回線

＊対象：世田谷区内の 18 歳までの子ども

＊広報：学校を通して子どもにチラシを 77,000 枚配布。

区立小中学校 93 校、ほっとスクール、私立・国立小中学校・高校と都立高校

＊実施体制：受け手（電話を受けるボランティア）、支え手（受け手を支えるボランティア）
延べ 45 名、広報ボランティア延べ 9 名、運営委員

＊寄附金額：301,821 円（110 件）

③ 受け手・支え手「全員集合交流会」の実施

受け手、支え手、運営委員の交流を深め、情報交換を行うため、「全員集合交流会」を実施した。

実施日	内容	参加者数
4/12	研修会、受け手認定授与式、交流会	25名
7/5	キャンペーンに向けた話し合い、交流会	15名
12/13	新規メンバー歓迎交流会	23名

④ せたがやチャイルドライン広報紙「ちゃ〜ら」の発行、カードの配布

せたがやチャイルドラインの存在を子どもたちに伝えるため、広報紙「ちゃ〜ら」を発行し、チャイルドライン東京ネットワークで作成したカードと一緒に配布した。（2月 区立小・中学校94校、私立小・中・高校にも配布、50,000枚）

(2) 参加の輪を広げる活動

① せたがやチャイルドライン応援団活動

「ささえる会」と協働して、応援団募金と「専用フリーダイヤルキャンペーン」応援募金への呼びかけをおこなった。

② チャイルドラインサポーター活動の推進

電話の受け手以外にも、チャイルドラインを応援する活動としてイベント出店の売り子や値付け、ものづくり等、様々なボランティア活動への参加の機会をつくった。

*イベント応援ボランティア 延べ46名

*ものづくりボランティア 4グループ、個人3名

③ ニュースレター・リーフレットの発行

せたがやチャイルドラインの活動を紹介、報告するための大人向けの広報紙を作成し、イベント時に配布したり、寄附者へ送付してチャイルドラインの広報活動を行った。

(3) 人材養成と研究活動

① 公開講座の開催

チャイルドラインの活動を広く知ってもらうとともに、将来の受け手候補やチャイルドライン活動のボランティアの開拓をねらいに、公開講座を開催した。6月7日～7月25日、全8回。延べ146名参加。継続参加18名。

② 受け手養成専修講座の開催

第19期のチャイルドラインの受け手養成のための専門的な講座を実施した。9月12日～11月2日、全10回、17名受講。14名がインターン生となった。

③ 受け手継続研修の開催

受け手のスキルアップのため、月1回継続研修を実施した。

④ インターン研修の開催

受け手研修修了後、受け手インターンとして登録された18期生を対象に、月1回の研修を実施した。

⑤ 支え手のための合宿研修の開催

受け手をサポートする支え手を対象に、全国のチャイルドラインの支え手も含めてスキルアップのための合宿研修を開催した。1月10日～12日（2泊3日）参加者14名。

(4) ネットワーキング活動

① 全国のチャイルドラインとの協働

チャイルドライン支援センターや全国各地のチャイルドラインとの情報交換を図り、全国運営者会議やエリア会議、エリア研修に参加した。

② チャイルドライン東京ネットワークへの参画

*東京都内でチャイルドラインの活動を行う各団体との定期会議へ参加した。

＊秋の東京キャンペーン 広報強化期間 9 月 1 日～30 日、電話強化期間 9 月 16 日～29 日

都内のチャイルドライン活動団体と協働で、子ども向けのカードの印刷・配布を行った。せたがやチャイルドラインは、世田谷区内の広報に加えて、東京都島しょ部の小・中学校への広報を担当し、島しょ部の子どもたちへ2,000枚のカードを送付した。

③ **子どものメッセージを届ける活動**

ニューズレターやブログ等を活用して、せたがやチャイルドラインから社会に向けての情報発信を行った。

(5) **組織の運営活動**

① **運営委員会の開催**

毎月 1 回運営委員会を開催し、せたがやチャイルドラインの運営等について協議した。

＊せたがやチャイルドライン運営委員：星野弥生（運営委員長）、天野秀昭、澤畑 勉、
月田みづえ、山本多賀子、和田芳子、窪松恵美子

② **各種会議の開催**

毎月 1 回支え手会議を開催し、受け手へのサポートについて協議した。

③ **職員体制**

臨時職員 1 名（週 2 回）、担当常勤職員 1 名（兼務）

(6) **企画・販売活動**

① **チャイルドラインショップの運営**

ボランティアセンターの無人ショップや世田谷文学館、パブリックシアター、世田谷美術館において、ものづくりボランティアによる手作り品を販売した。

② **各種イベントへのバザー出店**

花みずきフェスティバル、烏山もったいないバザール、昭和女子大学三茶子育てファミリーフェスタ、ふるさと区民まつり、雑居まつり、ボロ市、おたがいさまフェスタに出店し、せたがやチャイルドラインの活動の周知を図るとともに、事業資金の確保に努めた。

Ⅲ. 福祉事業

【福祉事業の2014年度総括】

福祉事業部は、受障後の日常生活再開にむけて、特にいくつかの後遺症を抱える方、生活に窮する方、就労継続が困難な方等に、同法人内のチームで、あるいは地域資源を、時にボランティアとの連携も行いながら、支援を実践した。

2014年度は、5つの重点目標掲げて以下のように取り組んだ。

(1) 地域生活再開から新たな「しごと」場づくりへの展開と、ボランティア・市民活動推進部との協働

部内全体が2チーム（新規事業・地域包括ケア）に分かれ、それぞれの事業を通じた課題整理を行うなか、世田谷ボランティア協会の福祉事業部として、今必要な「具体的な支援」についてまとめる準備ができた。その延長線で、ボランティア・市民活動推進部と協働のワークショップを、関係機関に留まらず、障害、高齢の枠を越えて、市民と共に試みることができた。

(2) 福祉事業部新規事業検討委員会のまとめ

具体的に検討委員会のまとめを作成するには至らなかったが、市民と共に新たな「しごと（役割）」を担う場の創設に繋がることを、上記の結果を得て実感し、実績を重ね2015年度に引継ぐこととなった。

(3) 安定した経営基盤の確立に向けて

福祉事業部の主な事業が、2014年単年度では収入減となった。各々の事業とも、その原因は複数あるが、タイムリーな収支状況の把握が十分にできなかったことも要因の一つであったので、組織推進部と連携して改善に取り組む。また、各事業で収入を増加させる具体的な方策の検討を始めており、収益を回復することを目標として収入増加の取り組みを行う。

(4) 相談事業の充実

世田谷区高次脳機能障害者支援促進事業については、当事者、家族のニーズに応じ、病院ソーシャルワーカーと連携し、丁寧な取り組みが実施できた。また、就労中の当事者と勤務先の調整等、幅広いニーズに、法人内の事業がチームとなり連携して対応した。

特定指定相談事業については、40件に近いケースを受け、月平均20万円弱の収入を得ている。高次脳機能障害者の相談が多いという当事業所の独自性による対応の難しいケースの利用や、制度そのものの問題等については、解決方法を行政、地域相談と相談しながら見出す必要があると考える。

世田谷障害者地域相談支援センターは、世田谷地域の独自の方式として、2014年に運営委員会を設置し、当事者、商店会、支援事業者等、様々な層からの意見を広く取り込み、ここを起点に共に解決に向け漕ぎだした。また、法人内の他事業との連携強化にもなった。

(5) 研修計画の立案と研修事業の推進

職員各自が研修希望を立て、各事業内で調整し、スケジュール化しながら実施した。特に、共有化すべき研修については、福祉事業部全体会議で報告を受ける機会をもち、研鑽を積んだ。2015年度への課題として、合同事例検討会の実施と、職員個々人の勤務状況に応じた研修計画のスケジュール化と共有化があり、2015年度実施の予定としている。

また、専門的資格取得支援の結果、登録ヘルパーから介護福祉士合格の成果を得た。

1. ケアセンターふらっと（障害者総合支援法 生活介護事業・自立機能訓練事業 ・高次脳機能障害者支援促進事業・特定相談支援事業）

2014 年度については、生活介護事業・自立機能訓練事業とも利用率が低下した年度となった。

生活介護事業の利用率の低下については、2012 年度にも課題としてあがった結果、入院等の長期欠席について対策をとったが、利用率向上への確たる対処とはならなかった。定期的なショートステイ利用、体調不良等、利用者の欠席が生じることについては了解事項としてとらえ、一日の登録人数を増やす等の安定した経営基盤の確立に向けて確実な対策をとり、2015 年度へつなげることが急務となる。

自立機能訓練事業については、利用単価が低いことと併せて、その利用要件に合う当事者が少ないことから、安定した利用人数の確保が困難であった。2015 年度は、地域に求められる支援を改めて検証した上で、自立生活訓練事業への変更を進めることを計画している。

日々の実践の中では、利用者が、障害がありながらも自己実現に向けて少しずつステップアップしていることも増えてきている。ケアセンターふらっとだけではなく、相談支援事業を含めた協会全体での支援の結果である。そのような実践経験を生かし、障害のある当事者が地域で望む生活を送るために必要な更なる支援について、2014 年度に新規事業検討委員会を作ることで、職員皆で話し合い確認し合う機会を持つことができた。現在の事業には収まりきれない更なる支援体制が必要であると、これまでの利用者との関わりや実践の中から実感しているところである。引き続き新規事業検討委員会で議論を続けながら、新規事業の実現に向け、職員が研修等の研鑽を積む必要があると考える。

継続して受託した高次脳機能障害者支援促進事業は、より対応が難しい相談ケースについて、区内外の関係機関と連携を取り、「顔の見える支援」を実施することができた。さらに世田谷区自立支援協議会、東京都自立支援協議会に参画しながら、当事者を中心にした地域での継続支援体制の基盤づくりと課題整理に努めた。世田谷区の指定事業である指定特定相談事業とともに、事業全体で支援する相談援助体制で取り組めるようになってきている。

（1）運営方針

運営にあたっては次の 5 つの基本方針にそって援助を行った。

- ① 社会生活への主体的な参加
- ② いのちと人権の遵守と心身の健康維持増進
- ③ 個性、特性を尊重した活動
- ④ 利用者と家族への支援
- ⑤ 地域の人たちとの交流

（2）利用定員等

- ① **利用定員**＝1 日利用定員を生活介護事業 20 名、自立機能訓練事業 6 名とし、様々なニーズに応えられるよう努力した。
- ② **利用日**＝年末年始及び日曜祝日を除き、生活介護事業は月曜日から土曜日まで、自立機能訓練事業は月曜日から金曜日までとした。
- ③ **利用時間**＝基本は 10 時から 16 時であるが、利用者の様々なニーズに合わせ、8 時 30 分から 19 時 30 分頃までのケア及び送迎に対応している。また、延長支援加算により、各利用者やご家族の状況に個別対応することで、必要なニーズに応えることができた。（8 時間を超えた利用延長分は、51 件計 153 時間）

④ 2014 年度利用状況

* 生活介護事業

年度	利用日	予定人数	利用人数	欠席人数	出席率(%)
2014	291	5,820	5,320	570	91.4
2013	290	5,800	5,399	577	93.1
2012	288	5,760	5,288	629	91.8

* 自立機能訓練事業

年度	利用日	予定人数	利用人数	欠席人数	出席率(%)
2014	239	1,434	747	217	52.1
2013	240	1,440	1,040	162	72.2
2012	238	1,428	1,043	132	73.0

(3) 利用者状況 (2015 年 3 月末、単位：人)

① 男女別

性別	男	女	合計
生活介護事業	30	17	47
自立機能訓練事業	5	4	9

② 身体障害者手帳級別

級別	1 級	2 級	3 級	4 級	5 級	6 級	その他	合計
生活介護事業	34	12	1	0	0	0	0	47
自立機能訓練事業	2	3	0	3	1	0	0	9

③ 疾患別

疾患別	脳血管障害	外傷	低酸素	難病	その他	合計
生活介護事業	29	14	1	2	1	47
自立機能訓練事業	5	1	0	0	3	9

④ 障害程度区分 (生活介護事業)

区分別	区分 1	区分 2	区分 3	区分 4	区分 5	区分 6	合計
生活介護事業	0	2	10	11	8	16	47

(4) 援助内容 (生活介護事業)

利用者本人のニーズや背景を考慮しながら、複数のプログラムを用意し、利用者が主体的に自己選択・自己決定が行えるように援助した。

① 料理活動

料理を通じ、作業動作ならびに日常生活の技術取得への支援を、利用者の状態や目的に応じてプログラムを設定し、作業療法士と支援員を中心に実施した。料理活動が利用者の自己実現につながっていること、その作業自体が高次脳機能障害も含めたリハビリテーションに有用であった。

② 機能保持活動

ア. リハビリテーションプログラム

療法士・看護師・リハビリテーション医等、専門スタッフと支援員とがチームを組みながら提供した。関係機関と連携をとり、在宅も含めた生活全般を援助した。

イ. 生活支援

関係機関とも連絡調整して、連携を図り、日常生活における様々な問題解決のため適切なアドバイスを行った。

ウ. 健康管理

食後の口腔ケアや血圧・体重・検尿及び委託による腸内細菌検査を、定期的及び必要に応じて実施した。また、各利用者の健康状態を把握するため、本人・家族に健康診断等の情報提供を可能な範囲で依頼した。

そして、合併症、後遺症のケアを自己管理できるよう、主治医、家族と連携をとりながら看護師を中心として支援した。

③ 創作活動

手芸・料理・パソコン等、グループあるいは個別で支援した。必要に応じて目標設定をして支援をした。

④ 仲間づくり

利用当事者の仲間づくりを積極的に支援した。特に当事者による自主グループ（パンづくり等、趣味を同一とするグループや、比較的若年の男性利用者グループ等）が活発に活動を行い、グループを通じて仲間意識をもちながら自身を振り返り、新たに自分の障害と向き合う貴重な機会となった。

⑤ 所外活動

季節感とリズムある暮らしと社会参加への足がかりとして、下記のような所外活動を実施した。

ア. 見学・鑑賞・散策

美術館・文学館・公園等の見学や散策、デパート・専門店・商店街での買い物等を利用者自身が選択、決定し実施した。自身での意志表出が困難な利用者に対しては、家族と連携をとりながら、受傷前の趣味等を勘案した外出先を検討する等、本人が主体的に活動できる機会を提供した。

また、四季折々を体験できるよう、小グループで様々な場所へ外出した。工夫次第で受傷前と同じように生活することが可能になることを経験し、またグループで活動することにより自身の精神的な負担を軽減しながら、生活におけるアクティビティを高めた。また、本人・家族ともに好評である誕生日企画（誕生日月に利用者各自が外出先等の希望や企画を挙げる）を2014年度も実施した。より個人の希望を汲み取り、利用者自身も自己選択・自己決定と実現を体験する足掛かりとなった。

イ. 催事等への参加

地域での祭り・バザー等に、希望者を中心に参加し、ボランティアや地域関係機関、住民等とイベントを通じて交流する機会をボランティア・市民活動推進部と連携してつくった。また、自ら企画や販売することで、「役割」を持って参加する機会ともなった。（雑居まつり、エテ・マルシェ、おたがいさまフェスタ等）

⑥ 援助プログラムづくり

利用者個々のニーズや障害状況を把握し、最も効果的と思われる支援プログラムを行った。

- * 利用者が抱える個々の問題について必要に応じて個別相談を実施した。
- * 利用者への援助に際して、「利用計画及びリハビリテーション実施計画書」にて長期・短期目標を利用者本人と共に設定し、取り組んだ。なお、実施に際しては家族の意見も取り入れながら行った。実施計画書の定期的な見直しを必ず行うことで、課題への振り返り及び次のステップへの一歩とした。
- * 行政、関連機関と緊密な連携をとり、支援体制を整えることで、個別支援が充実し、効果を見ることができた。現在、利用者3名が生活介護事業を利用しながら、就労の継続及びその一歩を踏み出している。
- * 事業所として高次脳機能障害者関係機関と連携し、高次脳機能障害者自主グループへの支援と啓発活動に努めた。

(5) 自立訓練（機能訓練）

① 利用現況（2015年3月末、単位：人）

利用者数：9名（1日定員：6名）

曜日	月	火	水	木	金
男	2	4	3	2	2
女	2	0	2	0	2
計	4	4	5	2	4

② 新規利用者動向

年代	人数	原疾患	目標
30代	2	脳血管障害、脳疾患	復職、就労
40代	1	脳血管障害	体調管理
50代	2	脳血管障害	復職、生活範囲の拡大

* 各人の状況が異なることから利用日数はそれぞれ異なる。

* 復職を含め、就労を目指す利用者が多いため、展開するプログラムもそれを意識したものとなってきている。また、復職を目指すにあたり、個別の状況に応じた支援が必要になってきている。

③ 退所者動向

年代	人数	原疾患	目標	転帰
40代	1	脳血管障害	就労	就労継続（B型）施設利用
50代	2	脳血管障害	復職、就労	就労移行施設利用 復職準備

④ 主なプログラムと1週間の流れ

プログラム	内容	目的	現況	今後の方向
土曜日	月の最終土曜日に「市場」を開催。ふらっとにて6回開催した。	地域における役割や場所を主体的に見つけるきっかけを探す。また、自立訓練利用終了者が立ち寄れる場としても活用していく。	回数を経て、経験を重ねることで、各々が自身の役割を意識し行動できるようになっている。また、自立訓練利用終了者と現利用者との関わりも生まれている。	利用者自身の次のステップへの一助としていきたい。利用終了者が気軽に立ち寄ることができる場として活用しつつ、地域とのつながりも模索していきたい。
古本寄贈作業	ネット古本を展開する就労継続B型事業所「カバース」に寄贈するための古本を集める。	古本収集作業に伴う各種作業を訓練として活用する。	ふらっとやパーム下馬利用者に少しずつ認知度が高まり、比較的コンスタントに収集し、作業を行うことができるようになっている。	古本寄贈だけではなく、利用者同士の交流の機会等、少しずつくっていききたい。
料理		馴染みがある「食」を通じて様々なトレーニングを行う。土曜市の商品試作・商品づくりの場として利用する。	季節のジャムや燻製等は、看板商品となり、製作段階もボランティアとの交流の場にもなっている。	土曜日商品開発・作成の場として更なる活用を図りたい。
外出		計画づくりを含め、主体的に物事を遂行する場、他者との関わりを持ち方についてトレ	各人の障害状況や年齢等が少人数でありながら多様であるため、話し合いを成立させる難しさがある。	グループ活動だが、各人の目標に基づいたそれぞれのトレーニングの場としても活

		ニングする場、公共交通機関の利用練習等、社会生活訓練の場とする。	各人の状況（身体面、経済面等）が異なる中でのグループ活動となるため、配慮が必要。	用したい。
ふらっと 内の作業	朝の準備、昼食配膳等	日常生活を利用した各種訓練の場とする。また、自分でできることは自分達で行うことを手始めに、役割を担う場の一つとしても活用する。	利用者によって意欲の相違はあるが、各人の障害に応じて様々な場面で作業を担うことができるようになってきている。	就労以外の場でも自身が必要とされている場があることに気づく一助となるような場づくりを目指したい。
個別課題		個別に対応が必要なことや、各人が目標にむけた課題を達成できるようにしていく。	目標に向けたスキルアップ内容が自身で明確になっている利用者がある一方、用意されている作業を行う時間となっている利用者もいる。	個別の課題ではあるが、利用者同士が影響し合い、スキルアップにつながるような場にしていきたい。

* 1週間の流れ（例）

曜日	月	火	水	木	金
午前	室内作業 （個別作業）	室内作業（ものづくり）	外出（公共交通機関利用練習）	室内作業 （個別作業）	外出（計画づくりを含む）
午後	個別課題	個別課題	個別課題	個別課題	個別課題

⑤ 関係機関一覧

就労支援機関	世田谷更生館
	浩仁堂（カバーヌ）
	さら就労塾ぼれぼれ
	世田谷区障害者就労支援センターしごとねっと
	東京都心身障害者福祉センター
企業等	陶芸教室 風の街
医療機関	東京慈恵会医科大学附属 第三病院
	国際医療福祉大学 三田病院
	東京医療センター
介護保険 及び 障害者総合支援法 関連	区総合福祉センター
	東京都視覚障害者生活支援センター
	ほほえみ経堂
	ケアステーション連

(6) 送迎

2014年度は、運行委託による送迎車両（リフト付き中型バス、車いすが2台乗るワゴン車）に加え、法人車両3台を活用し、より広い範囲への送迎を行った。また、送迎のルートを工夫する事で送迎時間もそれぞれの家庭の希望にできる限り添う形で行う事が可能になり、多くの方は乗車時間が延びる事もなく、さらに新たな利用者を受け入れることが出来た。自宅以外（ショートステイ先等）への送迎も行い、引き続き地域で安定した生活を送ることができるよう援助した。

しかし、利用を希望する方の障害状況は重く、また年齢も若いことから大型の車いすを利用されている方も多くなってきており、そのため乗車できる車両が限られているといった課題も残っている。

① 法人車両走行距離 <車両3台内訳> (単位: km)

年度	赤い羽根号	ハイエース	フリード	計
2014	11,235	11,670	9,516	32,421
2013	11,630	11,098	7,858	30,586

② 法人車両走行回数 <車両3台内訳>

年度	赤い羽根号	ハイエース	フリード	計
2014	801	662	562	2,025
2013	846	704	490	2,040

(7) 高次脳機能障害相談窓口

世田谷区高次脳機能障害者支援促進事業を引き続き受託した。

4月から3月末日までの相談件数 79 件となり、電話相談での情報提供以外はすべて面接を実施した。施設内にとどまらず、入院先の病院、自宅への訪問等を行った。

当相談窓口につながる相談は、高次脳機能障害が比較的重度であり、単に相談にとどまらず、関係機関との連携や、相談ケースにおける支援体制をつくるニーズが多く、どのように地域での生活を組み立てたらよいか、後遺症の高次脳機能障害をどのように見て行けばいいのか、治療方法は、リハビリテーションはどこが適切な場所なのか等のコーディネーションが多く、2014 年度も、特に入院中からの支援体制づくりが求められた。さらに退院後も家庭訪問、通院同行を重ね区障害担当者と連絡を取りながら退院後の生活の安定に向け継続した支援が必要となった。

そして 2014 年度は一旦就労した高次脳機能障害者が勤務先でうまくいかない、あるいは会社側の相談も受けることがあり、多岐にわたる事業となった。

① 相談件数

区分	電話のみ	面接	合計
件数	8 件	71 件	79 件

② 高次脳機能障害について啓発活動 (依頼を受けて講演)

桜新町アーバンクリニック 在宅医療スタッフ
栃木県社会福祉協議会
八王子市永生病院
世田谷区総合福祉センター
東京都リハビリテーション病院
静岡県富士宮市社会福祉協議会

③ 関連機関との合同会議

区総合福祉センター 高次脳機能障害関係施設連絡会
東京都心身障害者福祉センター 高次脳機能障害相談員連絡会
高次脳機能障害支援普及事業専門リハビリテーションのモデル事業

④ 主催講演会

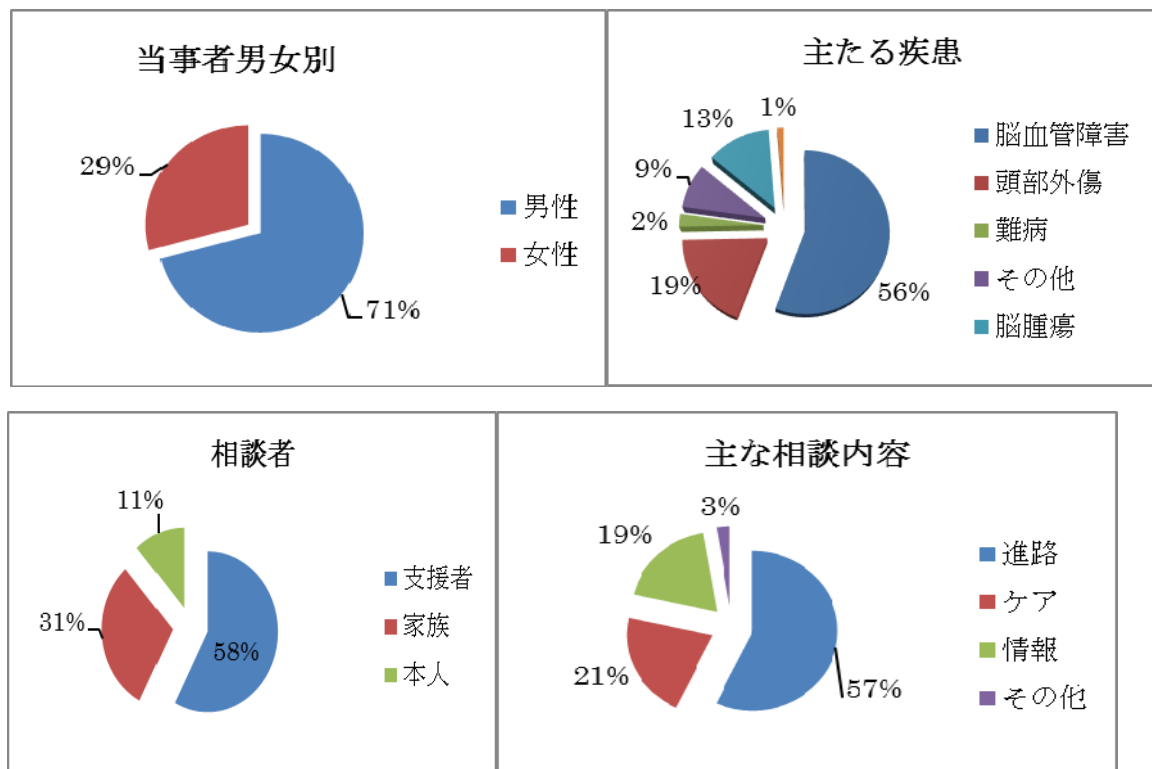
連続講座「成年後見を学ぶ」 第2回・第3回実施
対象: 当事者・家族・関係機関
総参加人数: 約 50 名

⑤ 連携機関一覧 (一部)

1	世田谷区保健福祉課障害支援担当 (5 総合支所)	16	区総合福祉センター
		17	成育医療センター

2	高次脳機能障害者家族会	18	東京都練馬障害者支援ホーム
3	東京医療センター	19	泉の家
4	岡本福祉作業ホーム玉堤分場	20	J R 東京総合病院
5	東京都心身障害者福祉センター	21	障害者就労支援センターしごとねっと
6	なかまっち	22	あしかりクリニック
7	初台リハビリテーション病院	23	久我山病院
8	慶応義塾大学病院	24	三宿病院
9	れいんぼう川崎	25	松沢病院
10	東京慈恵会医科大学附属 第三病院	26	七沢厚生ライトホーム
11	地域活動支援センターびーと	27	砧総合支所子ども家庭支援課
12	神奈川リハビリテーション病院	28	関東中央病院
13	世田谷記念病院	29	国立身体障害者リハビリテーションセンター病院
14	成城リハケアクリニック		
15	玉川病院	30	訪問看護ステーションこあら

⑥ 相談概要



(8) 実習・研修・見学受け入れ状況

① 実習

団体名等	人数
日本社会事業大学（社会福祉士）（2 3 日）	1
介護等体験（教員免許取得課程）（5 日）	1 0
帝京平成大学（作業療法）（3 日）	4
世田谷福祉専門学校（介護福祉）（1 日）	2
日本福祉大学事前実習（社会福祉士）（1 日）	1
昭和女子大学（社会福祉士）（2 3 日）	1
自衛隊中央病院高等看護学院（看護師）（1 日）	9

砧南中学（職場体験）（3日）	1
合計	24

② 研修

団体名等	人数
三菱東京UFJ銀行	4
人事院	9
ケアステーション連	3
永生クリニック	1
合計	17

③ 見学

団体名等	人数
常磐大学	1
武蔵野	1
東京ボランティア・市民活動センター	1
就労継続支援B型ときわの杜	4
世田谷区職員	3
第三者評価機関・評価調査員	2
ほほえみ経堂	1
総合福祉センター・当事者家族	3
ヘッドウェイ（英国から）	5
成育医療研究センター病院・当事者	2
支援員就職希望者	2
合計	25

(9) 職員研修

研修名	主催団体等	人数
第4回脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会	脳損傷者ケアリング・コミュニティ学会	3
高次脳機能障害認定及び遷延性意識障害について	交通事故被害者家族ネットワーク	1
回復期・維持期の高次脳機能障害の理解と対応	区西南部高次脳機能障害支援センター	2
地域包括ケアに向けた取り組み	三軒茶屋リハビリテーションクリニック、JR 東京総合病院	1
高次脳機能障害支援事業関係職員研修会	国立障害者リハビリテーションセンター	1
第1回国立障害者リハビリテーションセンター自立支援局事業公開	国立障害者リハビリテーションセンター	1
社会福祉事業従事者人権研修Ⅰ	東京都福祉保健局生活福祉部地域福祉推進課	3
重症心身障害者の日常観察と気づき	東京都障害者通所活動施設職員研修会	1
人格障害論の実像 境界例化と脱境界例化	日本子どもソーシャルワーク協会・ソーシャルワーク講座	1
感染症対策セミナー	世田谷区	1

障害者施設等の従事者向け障害者虐待防止・対応研修会	世田谷区障害福祉担当部障害施策推進課	1
実務研修(横浜ラポール、元気かい泉)		1
福祉用具・介護ロボット(移乗支援分野)講師養成研修会	テクノエイジ協会	1
福祉職場におけるセクハラ・パワハラ防止研修会	協会全体研修	8
高次脳機能障害の相談会	区総合福祉センター	1
高次脳機能障害者支援セミナー	いきいき福祉ネットワーク	1
高次脳機能障害ファシリテーター養成講座	高次脳機能障害支援ネット	1
福祉施設や支援現場における法的研修	東京都社会福祉協議会	1
これからの実効性のある苦情解決のあり方を考える	東京都社会福祉協議会	1
社会貢献事業に関するセミナー	東京都社会福祉協議会	1

(10) 運営委員会

ケアセンターふらっとが実施している様々な事業運営に関し、その充実と課題の解決について、以下の運営委員により、2014年度は2回開催した。

① 主な議題

第1回「利用者状況の推移と今後の支援のあり方について」

第2回「次につながる利用者支援について」

② 委員構成

委員名	所属等
芦刈伊世子	あしかりクリニック院長
小佐野彰	自立の家をつくる会代表理事
成田修	世田谷区保健福祉部障害者地域生活課長
興梶寛	協会理事長
松田由紀子	世田谷区障害者就労支援センターしごとねっと所長
橋本圭司	国立成育医療研究センターリハビリ科医長
早川毅	世田谷区世田谷総合支所保健福祉課障害支援担当
長谷川幹	三軒茶屋リハビリテーションクリニック院長
根津典史	協会事務局長
和田敏子	協会福祉事業部長

(11) ボランティア受け入れ

ボランティア数	43名	延べ681名
---------	-----	--------

(12) 職員体制(単位:人)

職種	常勤	非常勤
施設長	1	
サービス管理責任者(作業療法士1名)	2	
支援員	3	8
作業療法士(サービス管理者責任者と兼務1名)	2	
看護師	1	
事務	1	
理学療法士		3

言語聴覚士		2
リハビリテーション医（嘱託）		1
臨時職員（障害者雇用）		1

（13）特定相談支援事業

障害者総合支援法に基づく指定特定相談支援サービスを適切に提供し、利用者のサービス等の利用計画を、地域で自立した日常生活または社会生活が営めるよう作成することを目的とした。2014年度は開始してから3年目となったが、サービス依頼が増え、現在の人員では新規受け入れが限界になっていることに変わりはない。今後の新たなサービスの進め方について、関係機関と協議しながらこの制度に取り組んでいきたい。

＊ 利用者状況（2015年3月末現在、単位：人）

① 男女別

男	女	合計
22	13	35

② 地域別

地域	世田谷	玉川	北沢	砧	烏山	合計
人数	11	4	6	10	4	35

③ 計画相談実績状況（延べ人数）

月別	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月	合計
人数	7	9	6	10	16	9	10	9	18	15	16	14	139

2. ケアセンターwith（介護保険 通所介護事業）

ケアセンターwithは、介護保険通所介護事業を活用して、制度の届きにくい高次脳機能障害者が利用できるサービス提供の場として運営している。

開所当初より、「自分で選んで、自分で決める」を基本に、プログラムを提供している。利用開始時には受身的だった方も、あらゆる面で「自分で選び、決める」ことで、「楽しさ」と「自分でもできることがある」という実感を体感し、「以前より明るくなった」「積極的になった」との家族の方からの声をいただいている。その結果、家族や、ヘルパー等と一緒に外出機会が増えた方や、一泊旅行に行かれる方も多くなった。

言語聴覚士により言語訓練を月2回火曜日に実施し、かなりの効果が見られた。全失語の女性が参加され3年目で、「春の音コンサート」に歌で登壇でき、ご家族と一緒に忘れえぬ思い出が作られた。開所当初の利用者が卒業され、新規の若年の利用者の占める割合が増えてきた。その結果、平均年齢が65歳を下回るという介護保険通所介護事業としては全国でも希な状況になっている。

2014年度は、利用者へのサービスにとどまらず、より地域に根ざした施設としての役割を求められた年であった。ケアセンターwithへボランティアに来ておられた87歳の女性が、独居生活がそろそろ困難になり始め、地域でのサポートが必要となった。ケアセンターwithも積極的に、九品仏あんしんすこやかセンター、九品仏地区社会福祉協議会の各機関と連携してサポートを行い、福祉へ繋いだ。

2014年前期は順調だった出席率も、入院、体調を崩されやむなく突然の退所等の理由で後半の出席率が伸びなかった。その結果、収入予想を下回り赤字決算となった。単年度で黒字に転換すべく方策を講じ、経営安定を図る。

(1) 運営方針

- ① 介護保険制度の適用を受ける被保険者で、高次脳機能障害のある方に、積極的に地域で充実した時間と場所を提供する。
- ② 高次脳機能障害について当事者、家族、スタッフ、ボランティアが互いに学びあいながら、機能回復・維持を目指し、楽しく豊かな生活を共につくる場として運営する。
- ③ 利用者の自己選択、自己決定を基本にプログラムを進める。

(2) 利用定員等

- ① **利用定員**＝1日利用定員10名の範囲で、その日に空きがある場合は、希望される方を受け入れている。
- ② **利用日**＝年末年始、日祝日を除き、月曜日から土曜日まで開所日とした。
- ③ **利用時間**＝基本は9時45分から16時だが、利用者の事情に合わせ、8時から20時までケア及び送迎に対応している。
- ④ **過去3年間の利用状況の推移**

年度	利用日	登録人数	予定人数	利用人数	出席率(%)
2014	293	27	2,930	2,324	79.3
2013	289	30	2,890	2,535	87.7
2012	288	30	2,880	2,456	85.3

(3) 利用者状況 (2015年3月末現在、単位：人)

- ① **男女別** (平均年齢 65.7歳、平均利用日数 1.96日/人)

男	女	合計
21	6	27

- ② **身体障害者手帳級別** (手帳なし 7% 重複取得あり)

1種1級	1種2級	1種3級	2種4級	精神	なし
13	5	1	2	4	2

- ③ **車いす利用者数**

曜日	月	火	水	木	金	土
利用予定数	8	9.5	9	10	9	7
車いす利用者数	2	4	5	5	4	3

- ④ **要介護度別** (平均 2.77)

要介護1	要介護2	要介護3	要介護4	要介護5
5	7	8	6	1
18.6%	25.9%	29.6%	22.2%	3.7%

- ⑤ **地域別**

玉川	世田谷	北沢	砧	烏山	大田区	渋谷区	目黒区
10	6	3	2	0	4	1	1
37.1%	22.2%	11.1%	7.4%	0%	14.8%	3.7%	3.7%

- ⑥ **高次脳機能障害状況 (主症状)** **その他の障害 4名**

記憶障害	失語症	注意障害	遂行障害
9	5	6	3

(4) 援助の内容

- ① **基本サービス**

基本的サービス内容は、利用者とともに話し合って決めることを基本とし、「ケアセンターふらっと」の経験を踏まえて、以下の4本の柱を中心に置き活動を行った。

ア. 昼食の提供

昼食のメニューは、翌月のメニューを、日ごろから利用者の意見を聞きながら決め、「with 暦」（毎月発行している予定表）でお知らせした。必要な食材を買いに利用者と一緒に商店街に行った。様々な工夫を一緒に考え、料理活動を行った。またプログラムに応じて、弁当発注（知的障害者の作業所「目黒フードコミュニティ」への発注等）も行った。時には希望の多い外食プログラムを臨機応変に取り入れた。

イ. 外出活動を中心とした活動の充実

四季折々の景色を見に行ったり、ウィンドウショッピングに出かけたり、時には昔懐かしい甘味屋さんでお茶をしたり、絵画、伝統工芸や世界遺産等の文化・教養に触れたり、楽しい「とき」と「空間」をみんなで共有した。季節を感じながら食事をみんなで楽しむことを目的に外食に出かけることもあった。主な外出先は、横浜方面が近距離であるため、横浜三溪園、港が見える丘公園、ノースポートモール港北、横浜大栈橋、横浜中華街、横浜シンボルタワー等の希望が多かった。芸術に親しむ場としては、国立博物館平成館、山種美術館、国立新美術館、サントリー美術館、江戸東京博物館が人気であった。室内では、パソコン活動・料理活動を中心として利用者からの希望に応えた。

ウ. 機能保持活動

医師や作業療法士、言語聴覚士と連携を取りながら、機能の維持と回復のサポートを行った。セラピストより、事業所の活動においてできることの指示をいただき、トレーニングの機会を設けた。また、嘱託医と共にリハビリ相談を実施した。言語聴覚士により言語訓練を月2回火曜日に実施し、かなりの効果が見られた。

グループセッションでは、発語練習（字を見て、聞いて、復唱）、ゲーム（カードに書いてある果物・花等の名前を発語する）、会話（グループで、活動で出かけた場所や家での出来事等を話し合う）、歌を唄う等を行う。また、個別セッションでは、周波数調整器を使い発語のトレーニングを行った。その結果、失語症の利用者が、コミュニケーションの手段を獲得し、前向きになられた。

エ. 社会関係づくり

2014 年度も高次脳機能障害の理解を広げ、豊かな生活を送るために、ケアセンターwith を拠点にして、様々な人と交わる試みを行った。利用者と様々な形で関わるボランティアに、少しずつ近所の方が参加くださるようになった。また、利用者自らがボランティアをキーワードに、主役となって社会参加することを行った。

- * 九品仏商店会発刊の「九品仏かわら版」に掲載参加
- * 奥沢神社のお祭りの際に休憩所を提供
- * サタデーwith café 開催 7月：33名参加、12月：19名参加、小泉清人&清水翠ライブ。家族間の交流が深まり、実際抱えている悩み等の意見交換が盛んに行われた。商店会の方も参加された。
- * サロン de with 開催 6月、9月、3月の日曜日 13:00～15:00 ご近所の高齢者の方、ボランティアの方がお越しになり、利用者が作ったケーキとwithの自慢の珈琲でおもてなし、茶話会を楽しんだ。2014年度はバザーも同時開催して、多くの方との交流が生まれた。
- * 玉川福祉フェスティバル参加。歌声喫茶で会場を盛り上げた。また、コーギーズとして出店した「粽&焼売屋」に協力した。
- * 九品仏地区社会福祉協議会の方と情報交換を密に行った。
- * あんしんすこやかセンターと協力して独居高齢者のサポートを行った。
- * 世田谷高次脳機能障害連絡協議会主催『春の音コンサートⅧ（国士舘大学図書館地下多目的ホール）2月22日（日）事業所としても支援し、多くの利用者・家族の参加があった。

- * さくらまつり（総合福祉センター）に参加した。
- * ケアセンターふらっと土曜市にて、歌声喫茶風「歌の広場」を担当した。（12月、1月、2月、3月を除く）
- * おたがいさまフェスタ、エテ・マルシェに協力した。

② 個別的サービス

- ア．介護保険制度の枠にとどまらず、個人の生活を可能な限り援助する視点から、個別ニーズにも応じた。個人の目的に沿った時間延長、個別相談、機能訓練等、高次脳機能障害の特性を考慮に入れたサービス提供を行った。
- イ．個々のノートをつくり、その日の活動風景をデジカメで写して貼り、記憶の想起手段、失語症の表現の補助として活用した。
- ウ．リハビリテーションを目的とした入浴希望がある場合、可能な限りシャワー浴で対応した。

(5) 送迎

日産セレナ（2008年6月に全額自費購入）に日産キャラバン（2009年3月に日本財団より助成を受け購入）を運行し、送迎体制・所外活動を充実させた。運転業務はスタッフが行ってきたが、2010年度から運転業務専門の非常勤スタッフを雇用した。ガソリン価格の高騰の影響で、当初の見込みと違い補正予算を組まざるを得なかった。

* 走行距離(単位：km)

年度	セレナ	キャラバン	計
2014	14,601	19,454	34,055
2013	14,546	20,497	35,043

(6) 実習・研修・見学受け入れ状況

① 実習

団体名等	人数
世田谷福祉専門学校	3
合 計	3

② 研修者

団体名等	人数
三菱東京 UFJ 銀行	4
合 計	4

③ 見学者

団体名等	人数
社会福祉専門学校教員	1
言語聴覚士スタッフの知人	1
九品仏あんしんすこやかセンター	1
日扇会第一病院	2
元ふらっと利用者の家族	1
隣にお住いのヘルパー	1
板橋区ときわの杜	3
高齢者住宅新聞社記者	1
共愛ホーム	1
ナオミホーム	1
パイ焼き茶房	1
岡本作業ホーム玉堤分場	1

元家族	3
ケアプラン深沢	1
敬愛プラン	1
ほほえみの木々	1
おひさま保育園	2
サポートステーションさいとう	2
玉堤つどいの家	2
九品仏生活実習所スタッフ	2
合計	29

＊ 上記以外に

- ・九品仏地区社会福祉協議会の協力員の方に気軽に訪問いただいた。
- ・商店街・自治会の方々も気軽に入ってこられ、関係が密になっている。
- ・近所の方の交流会に場所をお貸しした。
- ・近所の方々も、高次脳機能障害についての質問や施設の内容、ボランティアの希望等で来所されている。
- ・利用者様の担当ケアマネの訪問が事業所によっては定期的にあった。

(7) 職員研修

① 外部研修会・勉強会

研修名・主催団体等
世田谷区高次脳機能障害者関係施設担当者会議
障害者支援相談従業者初級者研修
世田谷区民福祉学会 駒沢大学
研修会「区内施設等で働く言語聴覚士の交流会」 総合福祉センター
脳損傷ケアリングコミュニティ学会福島大会（会津若松市）
西南地区高次脳機能障害支援事業講演会（事例検討）
東京都食品衛生講習会 玉川区民会館
第1回西南部リハビリテーション講演会 北沢タウンホール
第1回区西部地域リハビリテーション研究会「移乗について」 成城リハビリテーションクリニック
明日から役立つ認知症ケア 成城ホール
若年性認知症を理解する 成城ホール
高齢者福祉6カ年計画に関するシンポジウム 世田谷区民会館
介護事業所職員研修「拘束・虐待を防ぐ」成城ホール
世田谷高次脳機能障害連絡協議会学習会 ふらっと
介護保険法改正に関する説明会 世田谷区民会館大ホール

② 内部研修

研修名等
福祉事業部全体ミーティングにて職場内研修（倫理 権利擁護）
研修会「悪徳商法について」
おたがいさまの思想 協会理事長 興梠寛
交通安全講習会 鈴木幸生（東京海上日動火災）

③ 常勤・非常勤合同ミーティング

毎月1回 19:00 から 20:30 開催。1回の平均参加者数 常勤：2人 非常勤4.1人
 内容：利用者に関する情報交換、事故検証、個人目標・留意点の確認、症状の学習等

(8) ボランティア受け入れ

ボランティア延べ人数	65 名	男性	20 名	／	女性	45 名
------------	------	----	------	---	----	------

(9) 職員体制(単位：人)

職種	常勤	非常勤
施設長（兼務）	1	
介護職員（兼務）	1	
相談員（兼務）	2	
言語聴覚士		1
リハビリテーション医		1
臨時職員（介護職員）		2
臨時職員（運転手・介護職員）		5

3. ケアステーション連（①介護保険 訪問介護事業、②障害者総合支援法 居宅介護事業・重度訪問介護事業・移動支援事業、③自由契約による事業）

第1号被保険者や高次脳機能障害等の第2号被保険者に対する介護保険事業、障害者(児)に対する障害者総合支援法事業、移動支援事業、自由契約利用者等、年間延べ1,207名の方々に対してサービス等を実施した。

2014年度のサービス状況に関して、以下の「2014年度利用状況」の表にあるように、全体的に利用人数の増加は見られたが、利用時間数は少なくなっている。このことから制度改正による時間の短縮化等の影響が出てきていると考えられる。

介護保険法による訪問介護事業は、特に当事業所の特徴として65歳未満の第2号被保険者の利用者が多く、第1号被保険者でも他事業所が対応困難な方を中心にサービスを行っている。

障害者総合支援法に基づく居宅介護事業・重度訪問介護事業は、サービス対象となる当事者に留まらず、全く制度とつながらない家族への支援が必要なケースや、自立（一人暮らし）へ向けた支援等、個々の障害特性の背景に対応することが重要となるケースが多くあった。

高次脳機能障害者移動支援においては、区や総合福祉センター、相談支援事業者等、関係機関と連携し、数多くの利用者が各々の目標にむかった成果を上げている。利用者が目標を達成する事により、短期間でサービスが終了する事が多い。これは事業所として成果であり、喜ばしい事ではあるが結果、なかなか安定した収入に繋がらないのも現状である。

自由契約は、介護保険及び障害者総合支援法の制度では利用できないサービスや、支給量をオーバーした部分について利用されており、2014年度は需要が多く収入増にもつながった。しかし、2014年度に課題としてあげた自由契約の利用内容と利用料等の見直しに関しては未着手であり、2015年度は整備を進め、自由契約者利用増に繋げていきたいと考えている。

事業所としての課題は、ヘルパー援助技術向上に留まらず、利用者宅への直行直帰が多い登録ヘルパーという雇用体系により、直接話し合う機会をつくり出すことが難しい現状がある。それを補うために、月に2回のヘルパーミーティング、あるいは紙媒体（ヘルパー通信「連ねっと」）による情報交換等や研修等を工夫することで、サービスの質の向上を図りながら、ヘルパーとの連携に努力し、2015年度もこうした取り組みを継続して行きたい。

(1) 運営方針

その心身の状況、置かれている環境等に応じ、住みなれた地域で、その方らしい自立した日常生活を営むことができるように関係機関とも連絡を密に取り支援した。多岐にわたる身体や障害状況に応じた支援と、利用者のみならず家族への支援を積極的に行った。

また、ヘルパーミーティングや事業所独自のスキルアップ研修を定期的に行い、支援への理解を深め、問題の解決、情報の共有化、スキルアップ、ヘルパー同士の交流に心がけながらヘルパーのモチベーションの向上も繋げていけるよう取り組んでいる。

ミーティングに参加できなかったヘルパーにも共通理解を深めるために、ヘルパー通信「連ねと」(No. 10～No. 17)を発行し、連絡を密に取った。

(2) 2014 年度利用状況

① 月別利用者人数 (単位：人)

	2013 年度					2014 年				
	介護 保険	総合 支援法	移動 支援	自由 契約	月合計	介護 保険	総合 支援法	移動 支援	自由 契約	月合計
4 月	22	27	39	6	94	23	28	38	12	101
5 月	21	25	37	6	89	21	30	39	12	102
6 月	21	24	37	6	88	23	28	39	12	102
7 月	21	28	38	7	94	23	31	38	11	103
8 月	23	28	35	8	94	22	28	37	10	97
9 月	22	26	38	9	95	20	31	37	10	98
10 月	21	27	37	10	95	18	31	39	12	100
11 月	22	28	35	10	95	20	32	35	11	98
12 月	22	24	36	9	91	20	30	37	12	99
1 月	22	27	36	10	95	21	32	39	11	103
2 月	23	27	38	12	100	22	30	39	9	100
3 月	23	25	40	12	100	22	31	40	11	104
合計	263	316	446	105	1,130	255	362	457	133	1,207

② 月別サービス提供時間 (単位：時間)

	2013 年度					2014 年度				
	介護 保険	総合 支援法	移動 支援	自由 契約	月合計	介護 保険	総合 支援法	移動 支援	自由 契約	月合計
4 月	319.5	789.0	281.5	59.0	1,449.0	320.0	705.5	323.5	57.0	1,406.0
5 月	311.5	819.0	325.0	52.0	1,507.5	300.0	682.0	303.0	66.5	1,351.5
6 月	313.5	736.0	306.5	34.0	1,390.0	293.0	735.0	276.0	57.5	1,361.5
7 月	329.0	795.5	320.0	45.0	1,489.5	331.0	819.0	314.5	59.5	1,524.0
8 月	348.5	816.5	254.0	48.0	1,467.0	293.0	680.0	259.0	55.5	1,287.5
9 月	310.5	698.0	295.5	43.0	1,347.0	284.0	738.0	302.0	56.5	1,380.5
10 月	331.0	739.5	282.0	58.5	1,411.0	300.5	815.0	306.5	64.5	1,486.5
11 月	328.5	732.0	302.0	54.0	1,416.5	275.0	697.0	256.0	57.5	1,285.5
12 月	309.5	646.0	270.0	52.0	1,277.5	243.0	717.5	308.0	46.0	1,314.5
1 月	308.0	689.0	302.0	50.0	1,349.0	270.0	671.0	234.0	29.0	1,204.0
2 月	297.5	663.0	292.5	65.5	1,318.5	256.0	646.0	251.0	23.0	1,176.0
3 月	316.5	741.0	304.5	75.5	1,437.5	277.5	726.5	302.0	44.5	1,350.5
合計	3,823.5	8,864.5	3,535.5	636.5	16,860.0	3,443.0	8,632.5	3,435.5	617.0	16,128.0
月平均	318.6	738.7	294.6	53.0	1,405.0	286.9	719.4	286.3	51.4	1,344.0

(3) 利用者状況 (2014 年 4 月～2015 年 3 月 単位：人)

① 介護保険 24 名

ア. 年齢・男女別

	40 歳 ～	45 歳 ～	50 歳 ～	55 歳 ～	60 歳 ～	65 歳 ～	70 歳 ～	75 歳 ～	80 歳 ～	85 歳 ～	90 歳 ～	合計
男性	0	1	1	2	4	1	3	0	0	0	0	12
女性	1	1	2	0	1	1	0	2	2	1	1	12
合計	1	2	3	2	5	2	3	2	2	1	1	24

イ. 介護度別

要介護 1	要介護 2	要介護 3	要介護 4	要介護 5	要支援	合計
6	5	5	2	6	0	24

ウ. 被保険者区分別

第 1 号	第 2 号	合計
11	13	24

エ. 地域別

地域	世田谷	玉川	砧	北沢	烏山	渋谷区	合計
人数	7	8	1	3	4	1	24

② 障害者総合支援法 (居宅、重度 36 名、移動支援 58 名、複数のサービスの重複利用あり)

ア. 利用サービス

居宅介護		重度訪問介護		移動支援		合計	
男	女	男	女	男	女	男	女
22	10	2	2	39	19	63	31

イ. 年齢・男女別

* 居宅・重度

	0 歳～	10 歳～	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳～65 歳	合計
男性	0	1	4	8	3	6	2	24
女性	0	0	3	2	4	0	3	12
合計	0	1	7	10	7	6	5	36

* 移動支援

	0 歳～	10 歳～	20 歳～	30 歳～	40 歳～	50 歳～	60 歳以上	合計
男性	0	2	6	8	9	8	6	39
女性	0	0	3	2	7	4	3	19
合計	0	2	9	10	16	12	9	58

ウ. 地域別

地域	世田谷	玉川	砧	北沢	烏山	渋谷区	合計
人数	31	27	12	13	8	3	94

エ. 移動支援利用者数内訳

身体なし	身体あり	高次脳身体なし	高次脳身体あり	合計
6	16	25	11	58

③ 自由契約 16名

ア. 年齢・男女別

	20歳未満	20歳～	30歳～	40歳～	50歳～	60歳～	70歳以上	合計
男性	0	0	1	3	0	1	0	5
女性	0	0	3	3	3	0	2	11
合計	0	0	4	6	3	1	2	16

(4) 業務内容

- ① 訪問介護サービス(介護保険)
- ② 居宅介護サービス(障害者総合支援法)
- ③ 重度訪問介護サービス (障害者総合支援法)
- ④ 移動支援サービス (障害者総合支援法)
- ⑤ 自由契約による在宅介護サービス
- ⑥ 請求に関すること (介護報酬・障害者総合支援法報酬・自由契約)
- ⑦ 相談・苦情処理業務
- ⑧ 専門学校生(世田谷福祉専門学校)の実習受け入れ

(5) 職員研修

職員及びヘルパーの資質向上と職務内容のスキルアップを図るために、スキルアップ研修（事例を挙げ、グループディスカッション）を実施した。

2015年4月には「防災」に関する研修を予定している。この研修では、ヘルパー達と一緒に「防災」について話し合い、事務所のマニュアル作りにも反映して行きたいと考えている。

2015年度も、このような研修を計画的に実施することにより、チームケアの重要性や必要性をヘルパー一人ひとりに理解して貰いながら、ヘルパーと共に事業所の質の向上を計っていきたいと考えている。

また、スキルアップ研修に関しては、参加できなかったヘルパーへ別の機会を設定したり、登録ヘルパー情報誌「連ねっと」で伝達できるように配慮した。

しかし、外部研修に関してはヘルパーへ伝達や情報提供しきれていない点があるため、今後は研修成果の伝達方法についても更なる検討が必要である。

① 外部研修会

研修名等	人数
認知症ケア研修・入門編 1～3	1
認知症ケア研修・基礎編 1～8	1
高次脳機能障害者支援普及事業（専門リハビリテーションの充実）	1
いざという時の緊急時対応	1
その「ことば」伝わっていますか ～福祉現場のことばからサービスの質を考える～	1
災害時、訪問介護事業所としての役割と準備を考える ～その時のために何をしておくべきか～	2
世田谷区高次脳機能障害者ガイドヘルパー養成講座の受講（3名資格取得）	3
世田谷区高次脳機能障害者ガイドヘルパーフォローアップ研修	1
介護技術フォローアップ研修 ～基本視点と技術確認～	1
福祉従事者としてのビジネスマナーの基本	1
介護事業所 職員研修（第3回）「拘束・虐待を防ぐ」	2

介護保険報酬改定等に関する説明会	1
障害者総合支援法 報酬改定に関する説明会	1

② 内部研修

研修名等	人数
採用時研修	—
伝達研修（感染症、食中毒、記録の書き方、自転車の道路交通法等）	—
介護技術研修、新人職員研修	—
メンタルヘルス（協会全体研修）	12
第2回及び第3回 成年後見制度を学ぶ（福祉部研修）	13
福祉職場におけるセクハラ・パワハラ防止研修（協会全体研修）	5
普通救急救命（協会全体研修）	10
スキルアップ研修 高次脳機能障害	25

(6) 職員体制

職種	常勤	非常勤
管理者（サービス提供責任者）	1	
サービス提供責任者	3	
ケアスタッフ		25
（内訳）介護福祉士	4	7
ヘルパー2級		18
内 高次脳機能障害ガイドヘルパー	4	22

(7) 今後の課題

- * 福祉関係の学校や過去の学修了者等に声をかけ、ヘルパーの増員を図る。
- * ケアマネや相談支援事業所等に営業をかけ、介護保険及び障害者総合支援法（移動支援を含む）利用者を増やす。
- * 研修の更なる充実を図り、事業所及びヘルパー全体の質の向上を目指す。
- * 複数のヘルパーが入っているケースについては、チームケアとしてカンファレンス等をこまめに開催し、ヘルパー間の共通理解、サービスの平準化の工夫をする。
- * 自由契約に関して、2015年度中には介護保険等の制度を使つての利用が困難な病院内の同行等を利用し易い金額で対応できる様に現行の利用内容直しをしていく。
- * 2015年度中にヘルパー賃金の見直しや介護業務推進手当の配当方法の検討をしていく。

4. 「ケア相談センター結」（介護保険 居宅介護支援事業）

2014年度も、2013年度に引き続き、協会の各福祉事業と連携を取り、地域における個々のニーズに可能な限り応じながら利用者の暮らしを支援した。認知症や高齢独居の対応困難なケース、生活保護を受給し障害を抱えるケース等、関係部署との連携が必要なケース等が目立った。高次脳機能障害のケースではケアステーション連、ケアセンターふらっと、ケアセンターwithとの連携を持ちながら対応してきた。

(1) 運営方針

介護保険法に基づく要介護認定を受けた利用者に対して、個々の解決すべき課題や心身の状況やおかれている環境等に応じた「利用者によるサービスの選択」と「保健・医療・福祉サービス

の総合的・効果的な提供」を行うため、適正な居宅サービス計画及びマネジメントを展開した。

(2) 2014 年度利用状況 () 内は%

① 居宅サービス提供者の状況

ア. 計画対象者数

2014 年度	男	女	計	2013 年度
要介護 1	25	58	83(19.6)	95(20.9)
要介護 2	34	80	114(27.0)	99(21.8)
要介護 3	55	15	70(16.6)	81(17.8)
要介護 4	54	2	56(13.3)	53(11.6)
要介護 5	63	36	99(23.5)	127(27.9)
合 計	231 (54.7)	191 (45.3)	422 (100.0)	455 (100.0)

イ. 実績対象者数

2014 度	男	女	計	2013 度
要介護 1	25	58	83(19.6)	95(21.2)
要介護 2	34	80	114(27.0)	99(22.1)
要介護 3	55	15	70(16.6)	75(16.8)
要介護 4	54	2	56(13.3)	53(11.8)
要介護 5	63	36	99(23.5)	126(28.1)
合 計	231 (54.7)	191 (45.3)	422 (100.0)	448 (100.0)

② 認定調査実績状況

	4 月	5 月	6 月	7 月	8 月	9 月	10 月	11 月	12 月	1 月	2 月	3 月	合計
世田谷	4	1	3	2	2	0	0	0	0	1	2	0	15
他 区	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	0	2	2
計	4	1	3	2	2	0	0	0	0	1	2	2	17

(3) 利用者の状況 (2015 年 3 月末、単位：人)、() 内は%

① 年齢・男女別

2014 年度	60 歳未満	60 歳～	65 歳～	70 歳～	75 歳～	80 歳～	85 歳～	90 歳以上	合計	2013 年度
男	9	2	4	4	1	0	0	3	23 (59.0)	28 (56.0)
女	4	1	2	1	1	1	1	5	16 (41.0)	22 (44.0)
合計 (%)	13 (33.3)	3 (7.7)	6 (15.4)	5 (12.8)	2 (5.1)	1 (2.6)	1 (2.6)	8 (20.5)	39 (100.0)	50 (100.0)
2013 度	11 (22.0)	5 (10.0)	8 (16.0)	8 (16.0)	3 (6.0)	2 (4.0)	3 (6.0)	10 (20.0)	50 (100.0)	

② 被保険者区分・男女別

2014 年度	男	女	計	2013 年度
第 1 号被保険者	11 (69. 0)	5 (31. 0)	16 (100. 0)	16
第 2 号被保険者	12 (52. 2)	11 (47. 8)	23 (100. 0)	34
合 計	23 (59. 0)	16 (41. 0)	39 (100. 0)	50

③ 地域・男女別

	男	女	計
世田谷区	28	16	39
他区	0	0	0
合 計	28	16	39

(4) 業務内容

- ① 要介護状態にあり、ケアが難しい高齢者及び第 2 号被保険者に対し、適正な介護保険計画及びマネージメントを提供した。また、生活保護・障害のケース等、関係各所との連携を持ちながら対応した。
 - * 第 2 号被保険者、高次脳機能障害で復職希望のケース
 - * 第 2 号被保険者、高次脳機能障害（記憶障害）単身・成年後見制度利用で就労継続の援助が必要なケース
 - * 若年性認知症の対応（周辺症状）困難ケース
 - * 生保世帯、脳梗塞後遺症・歩行失調の母親と同居する統合失調症の娘のケース
 - * 進行性核上性麻痺のケース
 - * 高齢者虐待が疑われるケース
- ② 居宅サービス計画の作成を行った。2014 年度新規居宅サービス計画作成件数 4 件
- ③ 介護保険に関する利用申請の代行を行った。16 件
- ④ ケアに関するあらゆる相談、関係機関とコーディネーションを行った。
各保健福祉センター生活支援課（生保担当）、各保健福祉センター地域支援課（障害担当）、世田谷成年後見センター、医療機関MSW等（東京武蔵野病院、東京慈恵会医科大学病院付属第 3 病院、玉川病院、都立松沢病院、関東中央病院、世田谷記念病院、昭和大学病院、東京医療センター、相州病院等）
- ⑤ 介護保険の認定調査を行った。（認定調査実績状況）
- ⑥ 高次脳機能障害をもつ当事者及び家族の相談窓口として、介護保険制度に関する情報提供を積極的に行った。
- ⑦ 相談業務に関しては、ケアセンターふらっとと連携して行った。実績はケアセンターふらっととの相談業務に含まれている。

(5) 職員研修

① 外部研修会

研修名等
東京都介護サービス事業者支援研修会（認知症高齢者の介護サービスの向上、認知症ケアの実践）
世田谷地域事業者交流会（世田谷地域合同地区包括ケア会議）
保険者と介護支援専門員が共に行うケアマネージメントの質の向上ガイドラインを活用したケアマネージメントの質の向上研修会
ケアマネージメントにおける医療と福祉の連携（ケアマネージャーの為の医療知識～目、呼吸器の病気）
高齢者虐待対応基礎研修（高齢者虐待対応の基礎知識）

認定調査研修会

② 内部研修

研修名等
地域包括ケアシステムについて
カンファレンスの開催

(6) 職員体制

職種	常勤
管理者（介護支援専門員）	1
介護支援専門員（常勤2名は兼務）	2

5. サービスラーニング学

2013年度に実施した介護職員初任者研修事業は、制度の変更等の影響で、全国的に受講生が減少した。また、障害者と高齢者のカリキュラムが分離され、協会にとって、どちらを行うかの選択が困難であった。さらに、新規事業の検討等の課題があり、担当職員配置も十分でないことから2014年度の実施を見送った。

6. 世田谷地域障害者相談支援センター

世田谷区より委託を受け、世田谷地域の相談利用者・障害者・児に対し、当事者の人格を尊重し常に利用者の立場に立った相談支援を行うこと、また、世田谷地域の関係事業所と協力、連携し相談支援体制の強化を図ることを目的とし事業を行った。

2014年度、世田谷地域障害者相談支援センターでは132名の方から1502件の相談があり、電話相談での情報提供以外はすべて面接を実施した。相談は事業所内にとどまらず、自宅への訪問、入院先の病院、通院同行、希望通所先への見学同行等を行った。

2013年度に比べ、障害別では「難病」「知的障害」の割合が増加した。理由として、2014年度から障害者総合支援法のサービス支給対象に難病が指定されたため、福祉サービス利用の相談が増えたことがある。また、知的障害に関しては、親の加齢、死去等、家庭環境の変化に伴い、将来的に家庭内のみで問題解決を図ることへ、相談者自身と親の不安が強くなり相談される場合が多く、相談件数が増えたことがあげられる。また、この傾向は障害に関係なく多く見られ、同様の理由で40～50代の相談数が半数以上を占めた。

相談内容も2013年度までは無かった「権利擁護」の相談も加わる等、本人のみの課題だけではなく、家族、周辺環境も含め複合的な内容が多くなり、地域での生活を組み立てるためには障害関係機関のみならず、高齢者関係機関、民生委員、区民との「つながり」「チーム作り」、「フォーマル」「インフォーマル」を含めた社会資源の活用が不可欠であった。

このような背景から地域相談支援センターとして、「基本相談」「地域の中での連携（つながり作り）」「地域への周知」を中心に事業を行う中で、世田谷地域における現状や課題が明確になってきた。「家族の高齢に伴う相談の多様化」「社会資源・サービスの足りなさ」「相談先のわかりづらさ（各機関の役割のわかりづらさ）」「公的資源以外のかかわり・居場所の必要性（ボランティア活動等）」等、地域相談支援センター事業だけで解決することは難しいと認識し、世田谷地域の様々な連絡会に参加し、地域の現状、課題把握と課題について関係機関と考える機会を多く作ると同時に、「話す会」「運営委員会」等、独自の取り組みを通し、障害の分野にとどまらず、障害当事者、区民も含め「地域の課題から不足している社会資源をともに考える」機会をつくり、私たち自身が

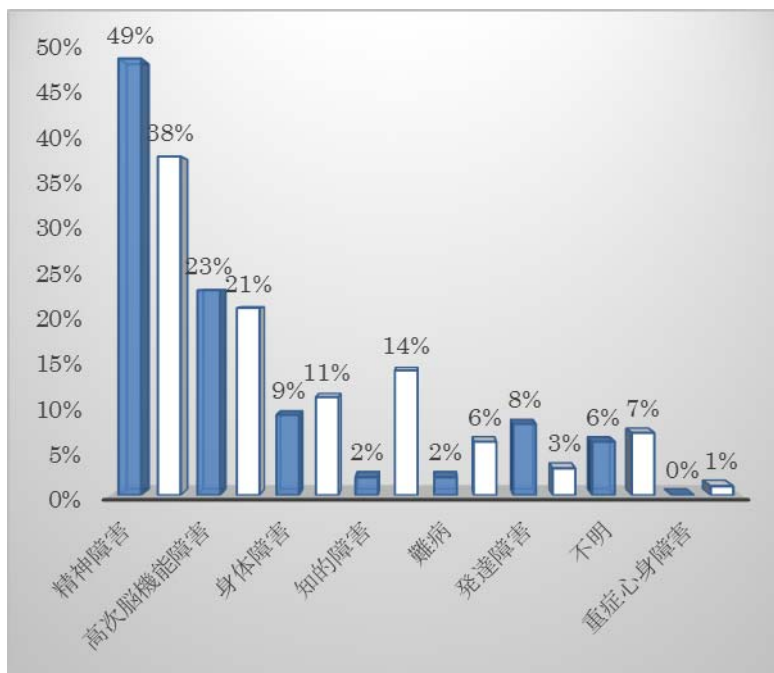
地域を知り、学ぶ姿勢を持ちながら事業に取り組んだ。

(1) 相談件数

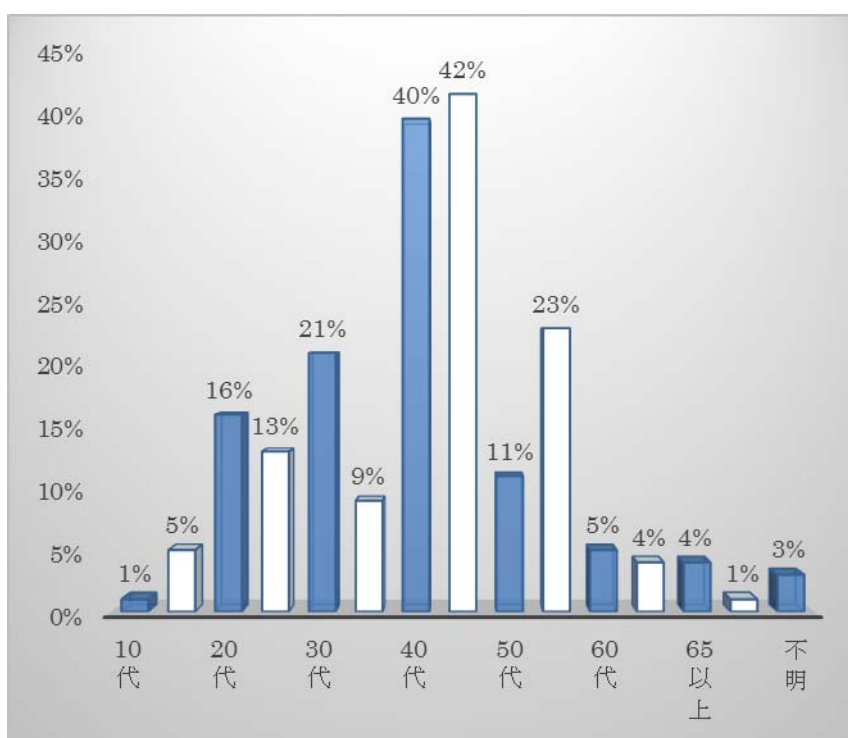
年度	2013 年度	2014 年度	年度	2013 年度	2014 年度
相談実人数	133 名	132 名	相談件数	980 件	1,502 件

(2) 相談概要 2014 年度⇒白のグラフ、2013 年度⇒黒のグラフ

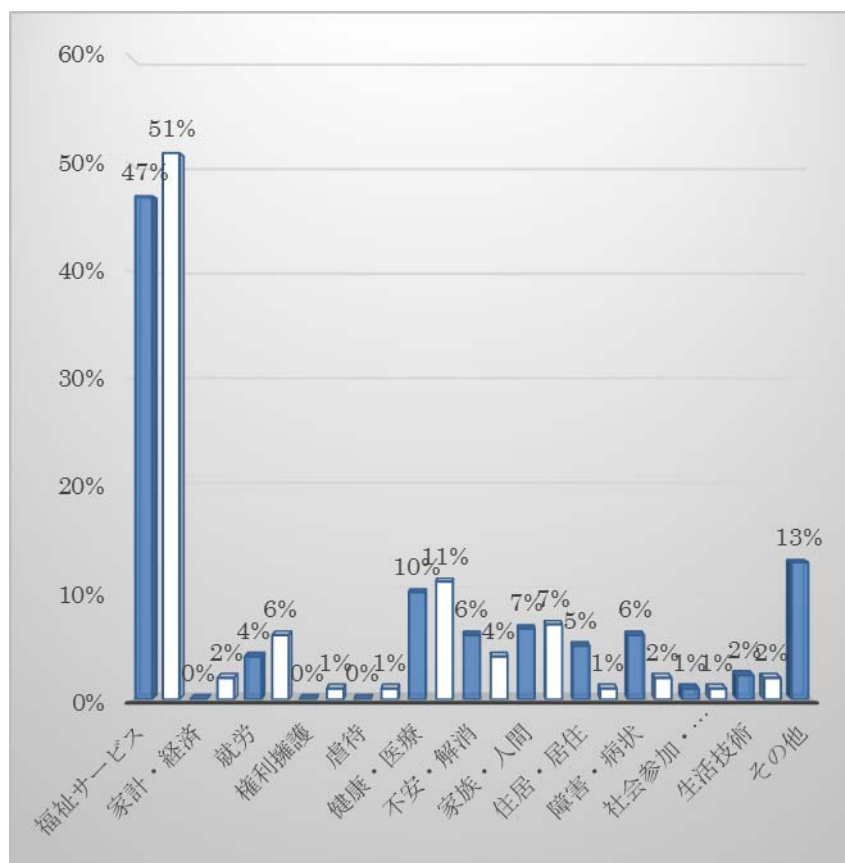
① 障害別



② 年代



③ 相談内容



(3) 相談支援体制作り

① 話す会の開催

	開催日・会場	参加事業者	内容
第1回	6月23日 わんぱくクラブ 三軒茶屋 (児童放課後デイ)	生活介護・就労継続B型・若者支援・児童放課後デイ・訪問介護・区役所・あんしんすこやかセンター・医療等 (22事業所31名)	・お互いを知る関係作り ・事業所紹介 ・本人と家庭、学校、地域のつながりの主軸はどこがもつ？(高校卒業後の進路も含め)
第2回	9月25日 ハーモニー (就労継続B型)	生活介護・就労継続B型・若者支援・訪問介護・特定相談事業・児童教育・あんしんすこやかセンター・総合福祉センター・区役所等 (15事業所21名)	・お互いを知る関係作り ・事業所紹介 ・幻聴妄想カルタを通して、それぞれの「居」 「居」場所・「居」心地・「居」どこをを考える。
第3回	2月19日 下馬福祉工房 (就労継続B型)	生活介護・就労継続B型・就労移行・就労支援センター・訪問介護・あんしんすこやかセンター・総合福祉センター・区役所等 (16事業所25名)	・お互いを知る関係作り ・事業所紹介 ・障害支援を行うヘルパー 事業所はなぜ増えないかを考える。

② 世田谷地域関連機関 連絡会への参加

連絡会・会議名	
地域障害者相談支援センター連絡会	世田谷区地域包括ケアシステム PT
世田谷地域ケア連絡会	世田谷区精神障害者通所事業連絡会
地域移行部会	精神障害者連絡会 世田谷ネット
三宿・池尻まちこま会	世田谷地区民協連絡会
下馬・経堂地区包括ケア会議	上馬地区高齢者見守りネットワーク会議
指定特定相談支援事業者全体連絡会	地域生活移行支援会議（区西南部）
池尻・太子堂地区合同包括ケア会議（医療と福祉の連携交流会）	
松沢病院・世田谷区関係機関との連絡会	

③ 世田谷エリア自立支援協議会への参加

会議名
世田谷エリア自立支援協議会（世田谷エリア会長として協議会運営）

④ 運営委員会の開催

委員構成（15名）	
身体障害当事者	ハーモニー（就労継続B型）
精神障害当事者	世田谷福祉作業所（就労継続B型）
知的障害当事者	すきっぷ分室クローバー（就労支援）
民生委員	わんぱくクラブ三軒茶屋（児童放課後デイ）
三宿四二〇商店会	池尻あんしんすこやかセンター
オープンスペース Be（若者支援）	駒澤大学
世田谷区障害福祉担当部障害施策推進課	三軒茶屋リハビリテーションクリニック
世田谷区世田谷総合支所保健福祉課	

(4) 連携機関一覧

1	世田谷区 各総合支所保健福祉課障害支援担当	51	三軒茶屋リハビリテーションクリニック
2	世田谷区障害福祉担当部 障害者地域生活課	52	錦糸町クボタクリニック
3	世田谷区障害福祉担当部 障害施策推進課	53	あしかりクリニック
4	世田谷総合支所 健康づくり課	54	駒沢診療所
5	世田谷総合支所 地域生活支援課	55	グループホームめぐ
6	世田谷区社会福祉協議会 権利擁護支援課	56	さくらハウス
7	世田谷地域社会福祉協議会	57	いちごリビング
8	世田谷区社会福祉事業団	58	プラットホーム世田谷
9	区総合福祉センター	59	ライフサポートやすらぎ
10	東京都心身障害者福祉センター	60	亀右衛門
11	プリズム	61	太子堂あんしんすこやかセンター
12	重症心身障害児療育相談支援センター	62	上町あんしんすこやかセンター
13	相談支援センターあい	63	池尻あんしんすこやかセンター
14	まつばらけやき相談支援センター	64	上馬あんしんすこやかセンター
15	砧地域障害者相談支援センター	65	下馬あんしんすこやかセンター
16	中部総合精神保健福祉センター	66	若林あんしんすこやかセンター
17	サポートセンターきぬた	67	駒澤大学
18	地域生活支援センターMOTA	68	三宿四二〇商店会
19	自立の家	69	たんぼぼの会
20	わんぱくクラブ育成会	70	NPOわかば

21	訪問看護ステーションけやき	71	ケアプラン駒沢
22	初台リハビリテーション病院	72	障害者就労支援センターしごとねっと
23	ケイクリニック	73	障害者就労支援センターすきっぷ分室クローバー
24	玉川病院	74	東京障害者職業センター
25	松沢病院	75	三軒茶屋就労支援センター
26	三軒茶屋診療所	76	アンシェーヌ藍
27	昭和大学付属烏山病院	77	藍工房
28	三軒茶屋なかむらメンタルクリニック	78	Navio けやき
29	三軒茶屋駅前メンタルクリニック	79	りばてい
30	虎ノ門病院	80	ざしきわらし
31	武田病院	81	にゃんこの館
32	日本赤十字社医療センター	82	まごの手便
33	桜町病院	83	ハーモニー
34	代々木病院	84	ほほえみ経堂
35	長谷川病院	85	ちぐさ企画
36	三宿病院	86	ちぐさ工房
37	東京医療センター	87	世田谷福祉作業所
38	国立国際医療研究センター	88	下馬福祉工房
39	東邦大学医療センター大橋病院	89	砧工房
40	桜新町メンタルクリニック	90	泉の家
41	メルクマールせたがや	91	せたがや若者サポートステーション
42	さら就労塾@ぼれぼれ	92	オープンスペース Be
43	訪問介護ナイスケア世田谷	93	総合幼児教室 Leaf ジュニア駒沢
44	すまいる梅丘	94	真和総合法律事務所
45	パイ焼き窯	95	ガイドヘルパーらしき
46	パイ焼き茶房	96	有言実行
47	Crazy Cats	97	深沢児童館
48	世田谷更生館	98	ケアセンターふらっと
49	浩仁堂	99	ヘルパーステーション連
50	森アン	100	世田谷ボランティア協会本部

(5) 職員研修

① 外部研修会

研修名等	主催
更生保護～立ち直りを支えるしくみ～	社会福祉協議会
罪を犯した障害のある人の実情と その背景を知る！学ぶ！	日本障害者協議会
改正精神保健福祉法の目指すもの	精神障害者地域移行体制整備支援事業
地域包括ケアに向けた取り組み ～欧州と日本の実践から～	三軒茶屋リハビリテーションクリニック JR 東京総合病院リハビリテーション科
パニックや不安をどう考えればいいのか	日本子どもソーシャルワーク協会

② 内部研修

研修名等
成年後見制度について（法人共催）

IV. 組織推進

【組織推進の2014年度総括】

組織推進部は、2014年度の重点目標として、「協会支援者の拡大」と「職員研修計画の体系化」を掲げ、業務に取り組んだ。

(1) 協会支援者の拡大

協会では、2010年度に財務検討委員会を設置し、協会の財務状況の分析や収入増加の取り組み等を検討したが、2011年3月の東日本大震災の発生を機に、委員会を中断している。2014年度は、新たな財源創出を図るため、協会支援者拡大のためのプロジェクトチームの設置を計画していたが、過去の委員会の記録の整理にとどまり、チームの設置には至らなかった。2015年度は、このチームを設置し、収入向上の取り組みの具体策を作成する。

また、寄附金やバザー収入等の自主財源が事業運営に不可欠であるボランティア・市民活動推進事業の会計に関しては、収支バランスを安定化していくことが必要であるため、2013年度実績から収入及び支出の詳細な内訳を集計して、資料を作成した。これらを用いて、協会の事業の意義や寄附金の必要性をアピールし、これまで支援者の大多数であった個人にとどまらず、区内の様々な分野の団体にアプローチし、協会支援者の拡大に取り組んでいく。

また、新たな財源創出のため、協会事業のこれまでの成果を活かした出版物や教材等の開発がもう一つの課題であったが、2014年度は、せたがや災害ボランティアセンターが作成した「避難所における困りごと事例と解決のためのヒント集」が10月に成果物として完成した。協会事業のアピールのためにも、各部と協議して、成果物の作成に取り組んでいく。

(2) 職員研修計画の体系化

世田谷区におけるボランティア・市民活動と福祉サービスの一層の推進を図るために、協会の職員の能力を向上させる職員研修は重要な要素である。2012年度に職員研修の体系化の準備作業を行い、2013年度には、職員研修の基礎作りとして、研修の重要性に対する職員の認識を高めるべく、職員に職層別研修の受講を奨励した。そして、2014年度は基礎作りの2年目として、職場研修のルールづくりやOJT（On the Job Training、日常業務の中での人材育成）の推進等を年間の課題とした。

しかしながら、上半期はボランティア・市民活動事業部とともにホームページの改良に主眼を置き、時間をかけて取り組んだため、職員研修の各課題に着手することができなかった。下半期においては、職場でOJTを推進するための研修に職員が参加する等の取り組みを行った。2015年度は、全職場でのOJTの推進と、職員研修のルールづくりに、各部と協議しながら取り組む。

また、厚生労働省が進める福祉職場におけるキャリアパス推進を受けて、職務経験とスキルを積み重ねた職員が、処遇面でも公平に評価される組織の確立を目指し、今後の国の社会福祉制度の動向を注視しつつ、対応を検討している。

1. 組織運営

理事会、評議員会、常任理事会等を開催し、円滑な法人運営に努めた。

また、理事・監事・評議員が、2014年9月30日をもって2年間の任期を満了となることから、理事会において評議員の選任、評議員会において理事及び監事の選任を行うとともに、新しい任期の理事の互選により理事長、副理事長等の選任を行った。

なお、新たな取り組みとして、各部の事業計画の重点目標に関して、上半期の進捗状況とその中間評価を行い、11月20日に開催した理事会及び評議員会に報告した。

(1) **理事会**：2014 年度は理事会を 6 回開催した。

回数	開催日	審 議 事 項
第 1 回	4 / 17	① 常務理事の互選について ② 評議員の選任について
第 2 回	5 / 29	① 2013 年度最終補正予算について ② 2013 年度事業報告・決算報告について ③ 2014 年度第 1 次補正予算について
第 3 回	9 / 24	① 任期満了に伴う評議員の選任について ② 2014 年度第 2 次補正予算について
第 4 回	9 / 24	① 理事の任期満了に伴う理事長の互選について ② 理事の任期満了に伴う副理事長等の互選について
第 5 回	11 / 20	① 登録ホームヘルパー賃金規程の変更について
第 6 回	3 / 26	① 再雇用職員給与規程の変更について ② 2014 年度第 3 次補正予算について ③ 2015 年度事業計画・予算案について ④ ケアセンターwith の施設長の任免について ⑤ 常務理事の互選について

(2) **評議員会**：2014 年度は評議員会を 4 回開催した。

回数	開催日	審 議 事 項
第 1 回	5 / 29	① 2013 年度最終補正予算について ② 2013 年度事業報告・決算報告について ③ 2014 年度第 1 次補正予算について
第 2 回	9 / 10	① 任期満了に伴う理事及び監事の選任について ② 2014 年度第 2 次補正予算について
第 3 回	11 / 20	① 登録ホームヘルパー賃金規程の変更について
第 4 回	3 / 24	① 再雇用職員給与規程の変更について ② 2014 年度第 3 次補正予算について ③ 2015 年度事業計画・予算案について ④ 理事の選任について

(3) **常任理事会**

法人の日常的な業務について審議するため、理事長、副理事長、常務理事で構成し、事務局からは事務局長、各部長等が出席して、月に 1 回定期的に開催した。

(4) **衛生委員会**

① **衛生委員会の開催**

産業医の指導のもと、労働災害の防止と快適な職場環境の整備を図り、職員の安全と健康を確保するため、定期的に委員会を開催した。

区分	選任区分	氏 名	所 属	指名区分
委員長	統括管理補助者	根津 典史	事務局長	法人指名
委 員	産業医	藤田 和丸	藤田医院院長	〃
〃	衛生管理者	赤井 充也	組織推進部長	〃
〃	〃	和田 敏子	福祉事業部長	職員推薦
〃	衛生経験者	今井 雅子	福祉事業部職員	〃

〃	〃	阿部 紀夫	組織推進部職員	〃
〃	〃	今関 将弥	ボランティア・市民活動推進部職員	〃

② 研修会の開催

職場の安全・衛生に関わるテーマの研修会を開催した。

研修名	講師等	人数
メンタルヘルス研修	柳瀬一正（元松沢病院 社会復帰支援室精神保健福祉士）	30 名
セクハラ・パワハラ防止研修会	森山千賀子（白梅学園大学教授）	17 名
普通救命講習会	世田谷消防署員	19 名

2. 事務局運営

(1) 職員・スタッフ研修の充実

① OJT推進研修への参加

OJTを推進するため、組織推進部とボランティア・市民活動推進部の職員が、OJTの実施方法や人材育成方法を学ぶ研修に参加した。現状では、事業によってOJTの取り組みに差があるため、各部と協議しながら、協会の組織全体でOJTの推進を図る。

	人数
ボランティア・市民活動推進部	1 名
組織推進部	2 名

② 外部研修への参加

役職員に外部研修への参加を奨励し、総務分野での人材強化に取り組んだ。

*組織推進部職員研修

研修名	主催団体等	人数
社会福祉法人の運営等に係る講習会	東京都保健福祉局	1 名
総会講演「今後、社会福祉法人に求められる役割」	東京都社会福祉協議会 ・社会福祉法人協議会	1 名
人権問題雇用主研修会「ネット上の人権侵害」	ハローワーク渋谷	1 名
社会貢献事業に関するセミナー「今、社会福祉法人が行動するとき」	東京都社会福祉協議会 ・社会福祉法人協議会	1 名
新会計基準への移行解説及び移行手順について	ピー・シー・エー株式会社	1 名
感染症対策セミナー	世田谷保健所	1 名
社会福祉法人・施設会計実務研修会「会計決算実務研修」	東京都社会福祉協議会	1 名
セミナー「法人・施設の次世代を担う職員が育つ職場をつくる組織・人事政策とは」	東京都社会福祉協議会 ・社会福祉法人協議会	1 名
世田谷警察署パートナーシップ研修会	世田谷警察署	1 名

(2) 規程類の整備

評議員会及び理事会の議決を経て、規程類の変更を行った。

* 登録ホームヘルパー賃金規程、再雇用職員給与規程

(3) 2013 年度年次報告書の作成

- ① 2013 年度年次報告書を 400 部発行
- ② 協会のホームページに抜粋を掲載

③ セボネ 12 月号に抜粋を掲載

(4) 防災・防火訓練の実施

地震・火災等の災害に備えて、防災・防火訓練を実施した。パーム下馬では、ボランティアセンター、ケアセンターふらっと、下馬福祉工房、プレーパークせたがやが協力して実施した。

実施日	訓練項目	実施場所	人数
6/17	火災総合訓練（避難訓練と消火訓練）	パーム下馬	59 名
8/28	地震総合訓練（避難訓練と消火訓練）	梅丘ビューロー	6 名
11/28	地震総合訓練（避難訓練と消火訓練）	パーム下馬	42 名

(5) 職員定期健康診断の実施

安全衛生管理規程に基づき、職員定期健康診断を実施した。

実施時期	実施機関	受診者数
6 月～11 月	新宿健診プラザもしくは世田谷区保健センター	44 名

(6) ボランティアグループ・福祉団体等への後援

実施日	事業名	主 催
4/18	「もうひとつの家族」公開前夜祭～ある精肉店のはなし	優れたドキュメンタリー映画を観る会
4/15～ 3/17	お世話をするあなたが、まず元気に！「からだ」から「こころ」気功講座	人の泉オープンスペース “Be!”
4/26～ 3/28	赤堤リサイクルフリーマーケット	人の泉オープンスペース “Be!”
4/27	こども劇場わくわくシアター2014	こども劇場せたがや
5/11	平成 26 年度家庭倫理講演会	倫理研究所
7/5 ～6	日本道德教育学会第 83 回（平成 26 年度春季）大会	日本道德教育学会
7/19	第 36 回がやがやなまつり	がやがやなまつり実行委員会
8/24	夏休みファミリー手話ミュージカル「叔母さん！こんにちは!!～僕が手話を覚えた理由（わけ）」	手話パフォーマンスきいろぐみ・横浜市港南区民文化センター「ひまわりの里」
8/24	第 3 回世田谷代田ものこと祭り	世田谷代田ものこと祭り実行委員会
9/6	第 16 回玉川福祉フェスティバル	玉川福祉フェスティバル実行委員会
9/27	第 12 回パイ焼きまつり	はる
10/12	第 39 回雑居まつり	雑居まつり実行委員会
10/18	災害ボランティア講座～チェーンソー等の使用方法を学ぶ	復興ボランティアタスクフォース
11/2	第 6 回わんぱくまつり	わんぱくクラブ育成会 父母会
11/8	第 83 回陽杲会サロン 忘れまい！東日本大震災復興応援 希望 絆 感謝 チャリティコンサート	陽杲会
11/8	映画「むかし Matto の町があった」世田谷上映会	映画「むかし Matto の町があった」世田谷上映会実行委員会

12/13	わんぱくクラブ育成会 トワエモア コンサート	わんぱくクラブ育成会
1/17 ～18	手話パフォーマンスきいろぐみ 25 周年記念手話ライブ「きいろぐみ WINTER !! 2539 !!」	手話パフォーマンスきいろぐみ

(7) ボランティア・市民活動推進部との協働事業

① ボランティアセンター・ビューローの会議室利用申し込み方法の変更

2014年7月に、ボランティアセンター及び各ボランティアビューローの会議室の利用申し込み日を、それまでの1か月前から2か月前に変更した。このことにより、利用団体が講演会等でボランティアセンター等を使用するときに会場が早く確定することで広報期間を長く取れることや、ボランティアセンター等の予約が取れなかった時に他の会場を探す時間が延びること等、利用団体の利便性を高めることができた。

② 協会ホームページの改良

見やすい、探しやすい、投稿しやすいをコンセプトに、2014年11月に協会ホームページを改良し、フェイスブックやツイッター等のソーシャルネットワークとの情報の連動等、これまで分散していた情報検索や投稿の機能の一元化を図った。また、各拠点や事業ごとのブログも同じページへ集約し、接続性を向上させた。

さらに、高度なアクセス分析機能を追加し、ホームページがどのような使われ方をしているのか等の傾向がリアルタイムで把握できるようになり、より効果的な周知やアピールが可能となった。また、スマートフォンやタブレットなどの利用情報端末の変化にも、これまで以上に対応できるものとし、時代にあった機能向上を図った。

一方で、ブログによって更新の頻度がまちまちであり、長い期間にわたって更新されないものがあることや、情報を探してもたどり着きにくいページがあること等の課題が残されているので、組織推進部がまとめ役となり、ボランティア・市民活動推進部と協力して、ホームページ運用のルールづくりや改良の必要なページの検討等を行い、課題解決を図る。

(8) 職員体制

常 勤：組織推進部長 1名、給与・庶務担当 1名

臨時職員：会計担当 1名（週5日）

3. 財政運営

(1) 自主財源拡大のためのとりくみ

民間ボランティア活動推進機関としての役割を果たし、先駆的、創造的事業を展開するためには、安定した財源の確保は不可欠である。基本的運営費については行政の支援を得つつ、区民への公共的役割を果たし継続的に諸事業を行うために、協会の事業に共感してくださる方々に支援をお願いし、また、事業参加者に適切な受益者負担を求める等、自主財源の確保に努めた。

① 基本財産の保護と運用

協会が保有する基本財産は、回復傾向にあるとされる金融情勢を見据えつつも、1億円の基本財産は、従来と同様に、銀行の定期預金で安定的に運用した。

② 寄附金収入

ボランティア・市民活動推進事業とチャイルドライン事業は、区民からの寄附金が重要な財源となっている。2014年度には協会支援者拡大プロジェクトチームを設置する予定であったが、検討材料となる資料の作成に留まり、チームの設置には至らなかった。そのため、2014年度の寄附金額は、2013年度の409万円を下回る235万円となった。

2015年度は、このチームを設置し、収入向上の取り組みの具体策を作成する。そして、個人への募金の依頼にとどまらず、寄附金の税額控除に係る証明を受けている団体のメリットと、これまで協会がつくってきた人のつながりを活かし、これまで協会と関わりが少なかった分野の各種団体等にも、職員が訪問して募金を依頼する。

*** 寄附金収入の推移**

年度	2014	2013	2012	2011	2010
法人全体	235万円	409万円	376万円	1121万円	636万円

(注) 2010年度と2011年度の募金額が多いのは、東日本大震災の特別募金があったためである。

③ バザー収入

バザー収入も、ボランティア・市民活動推進事業とチャイルドライン事業の重要な財源となっている。2014年度は、2013年度と同様の規模や回数でバザーを行ったが、2013年度の売上額には届かなかった。2015年度は、新たなバザー会場の開拓や寄贈品の収集方法など、バザー収入をさらに伸ばす方策を検討し、順次着手する。

*** バザー収入の推移**

年度	2014	2013	2012	2011	2010
法人全体	529万円	555万円	597万円	562万円	447万円

④ 事業収入

福祉事業は、事業収入が主な財源となっている。福祉事業以外のボランティア・市民活動推進事業等においても、講座の参加費収入等、可能な限り参加者の受益者負担を求めている。2014年度は、2013年度とほぼ同じ水準で推移した。

*** 事業収入の推移 (バザー収入以外の雑収入を含む)**

年度	2014	2013	2012	2011	2010
福祉事業	1億8620万円	1億8340万円	1億7538万円	1億7127万円	1億6622万円
福祉事業以外	684万円	603万円	808万円	1298万円	436万円
法人全体	1億9304万円	1億8943万円	1億8346万円	1億8425万円	1億7058万円

(注) 福祉事業以外の2011年度と2012年度の事業収入が多いのは、東日本大震災の支援事業に係る助成金等の収入があったためである。

(2) 世田谷区の補助金

2014年度は世田谷区から、ボランティア・市民活動推進事業及び法人運営のため7,622万円、ケアセンターふらっと運営のため3,933万円の補助金が交付された。

*** 経常経費補助金収入の推移**

年度	2014	2013	2012	2011	2010
法人全体	1億1555万円	1億1246万円	1億1070万円	1億1170万円	1億1421万円